

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-95	高等学校	地理歴史科	日本史探究	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		

1. 編修の基本方針

教育基本法第2条第1号「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。」に留意した点

- * 「原始・古代」「中世」「近世」「近代・現代」の各時代の歴史について、政治・外交・経済・社会・文化などの各分野を関連づけながら叙述し、「幅広い知識と教養を身に付け」ることができるよう留意した。
- * 各章の冒頭の導入文で「問い」をなげかけることによって各章の学習の目的を明確にした。また、本文などを読む際の着眼点となるような「Q(問い)」を所々に設けて深い理解や多角的な考察を促し、「真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う」ことができるように留意した。

教育基本法第2条第2号「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。」に留意した点

- * 「歴史資料と原始・古代の展望」「歴史資料と中世の展望」「歴史資料と近世の展望」「歴史資料と近代・現代の展望」では、生徒が主体的に興味をもって学習に取り組めるよう、取り上げる資料に留意した。
- * 生徒の興味・関心を引き出し、本文の理解を深めることができるような地図やグラフ・文字資料等を掲載した。とくに「読みといてみよう」では、資料から情報を読み取って考察し、これをもとに対話的な活動をおこなうことで、「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う」ことができるように配慮した。
- * それぞれの時代において、政治の中心にあった人々だけではなく、さまざまな階層の人々の営みを多角的に取り上げ、「職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと」ができるよう留意した。

教育基本法第2条第3号「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。」に留意した点

- * それぞれの時代における個人・集団の対立や協調、また、さまざまな差別や格差の問題とそれへの取組などについての叙述を通じ、「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力」を重んじる態度を養うことができるように留意した。
- * 各章のまとめでは、みずから主体的に考察し、表現することをうながすように配慮した。
- * 「現代日本の課題の探究」では、歴史的な経緯を踏まえて現代的な課題を理解し、持続可能な社会の実現に向けて主体的に考える活動を通して「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」ができるよう留意した。

教育基本法第2条第4号「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。」に留意した点

*たび重なる戦争や、経済の発展に伴う環境問題、また、そうした問題に対する取組についての叙述から、「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと」ができるよう留意した。

教育基本法第2条第5号「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」に留意した点

*世界と日本を関連づけて多角的に考察する歴史総合の学習をふまえ、諸外国との関係・交流の歴史を丁寧に説明し、国・地域の違いやその背景について気づくことができるように配慮した。

*さまざまな影響を受けながらはぐくまれてきた日本の文化を取り上げることで、「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度」を養うことができるように留意した。

*各時代で、対外的・国際的な問題を取り上げ、考察を促すことで、「他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度」を養うことができるよう留意した。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<p>第I部 原始・古代</p>	<p>*部の冒頭で、原始・古代の展開を世界の歴史と関連付けて概観し、年表も掲載した(第1号)。</p>	<p>p. 5</p>
<p>第1章 日本文化のあけぼの</p> <p>1 文化の始まり</p> <p>2 農耕社会の成立</p> <p>●歴史資料と原始・古代の展望</p> <p>①古代社会と海外との交流</p> <p>②木簡から古代国家を探る</p>	<p>*全体として、公正な立場から客観的に叙述した(第3号)。また、日本の歴史が、さまざまな地域や人々との交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙述した(第1号)。</p>	<p>p. 6～74</p>
<p>第2章 古墳とヤマト政権</p> <p>1 古墳文化の展開</p> <p>2 飛鳥の朝廷</p>	<p>*第1章では、地球環境の変化と人々の生活について記述し、それへの関心が高まるように留意した(第4号)。</p>	<p>p. 6～19</p>
<p>第3章 律令国家の形成</p> <p>1 律令国家への道</p> <p>2 平城京の時代</p> <p>3 律令国家の文化</p> <p>4 律令国家の変容</p>	<p>*「歴史資料と原始・古代の展望」では、みずから歴史資料を読みとって多角的に考察し、仮説を表現するための資料の例として、海外との交流を示す文字資料や、古代の木簡を取り上げた(第2号)。</p>	<p>p. 20～23</p>
<p>第4章 貴族政治の展開</p> <p>1 摂関政治</p> <p>2 国風文化</p> <p>3 地方政治の展開と武士</p>	<p>*文化史は、時代背景や周辺諸国との交流とも関連付けて叙述し、伝統文化への理解や親しみが深まるよう、今日に伝わる文化財などは積極的に図版として取り上げた(第5号)。</p>	<p>p. 34～36、49～54、58～61、65～69</p>

<p>第Ⅱ部 中世</p> <p>第5章 院政と武士の躍進</p> <p>1 院政の始まり</p> <p>2 院政と平氏政権</p> <p>●歴史資料と中世の展望 絵画から中世社会を探る</p> <p>第6章 武家政権の成立</p> <p>1 鎌倉幕府の成立</p> <p>2 武士の社会</p> <p>3 モンゴル襲来と幕府の衰退</p> <p>4 鎌倉文化</p> <p>第7章 武家社会の成長</p> <p>1 室町幕府の成立</p> <p>2 幕府の衰退と庶民の台頭</p> <p>3 室町文化</p> <p>4 戦国大名の登場</p>	<p>*部の冒頭で、中世の展開を世界の歴史と関連付けて概観し、年表も掲載した(第1号)。</p> <p>*全体として、公正な立場から客観的に叙述した(第3号)。また、日本の歴史が、さまざまな地域や人々との交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙述した(第1号)。</p> <p>*第5章では、古代から中世への変化に留意してその転換を記述し、中世という時代への関心が高まるようにした(第1号)。</p> <p>*「歴史資料と中世の展望」では、みずから歴史資料を読みとって多角的に考察し、仮説を表現するための資料の例として、京都を描いた絵画を取り上げた(第2号)。</p> <p>*文化史は、時代背景や周辺諸国との交流とも関連付けて叙述し、伝統文化への理解や親しみが深まるよう、今日に伝わる文化財などは積極的に図版として取り上げた(第5号)。</p>	<p>p. 75</p> <p>p. 76～136</p> <p>p. 76～85</p> <p>p. 86～89</p> <p>p. 104～109、 125～132</p>
<p>第Ⅲ部 近世</p> <p>第8章 近世の幕開け</p> <p>1 織豊政権</p> <p>2 桃山文化</p> <p>●歴史資料と近世の展望 生類憐みの令からみる江戸時代の社会の変化</p> <p>第9章 幕藩体制の成立と展開</p> <p>1 幕藩体制の成立</p> <p>2 幕藩社会の構造</p> <p>3 幕政の安定</p> <p>4 経済の発展</p> <p>5 元禄文化</p>	<p>*部の冒頭で、近世の展開を世界の歴史と関連付けて概観し、年表も掲載した(第1号)。</p> <p>*全体として、公正な立場から客観的に叙述した(第3号)。また、日本の歴史が、さまざまな地域や人々との交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙述した(第1号)。</p> <p>*第8章では、中世から近世への変化に留意してその転換を記述し、近世という時代への関心が高まるようにした(第1号)。</p> <p>*「歴史資料と近世の展望」では、みずから歴史資料を読みとって多角的に考察し、仮説を表現するための資料の例として、「生類憐みの令」を取り上げた(第2号)。</p>	<p>p. 137</p> <p>p. 138～218</p> <p>p. 138～149</p> <p>p. 150～153</p>

<p>第10章 幕藩体制の動揺</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化 	<p>*文化史は、時代背景や周辺諸国との交流とも関連付けて叙述し、伝統文化への理解や親しみが深まるよう、今日に伝わる文化財などは積極的に図版として取り上げた(第5号)。</p>	<p>p. 146～149、 164～166、 187～191、 198～203、 213～218</p>
<p>第IV部 近代・現代</p> <p>第11章 近世から近代へ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の発足 <p>●歴史資料と近代・現代の展望</p> <ol style="list-style-type: none"> ①五箇条の誓文と国是 ②貿易の変遷からみる日本の近代・現代 <p>第12章 近代国家の成立</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立 <p>第13章 近代国家の展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日清・日露戦争と国際関係 2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制 <p>第14章 近代の産業と生活</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民生活の変容と大衆文化 <p>第15章 恐慌と第二次世界大戦</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦 <p>第16章 占領下の日本</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和 	<p>*部の冒頭で、近代・現代の展開を世界の歴史と関連付けて概観し、年表も掲載した(第1号)。</p> <p>*全体として、公正な立場から客観的に叙述した(第3号)。また、日本の歴史が、さまざまな地域や人々との交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙述した(第1号)。</p> <p>*第11章では、近世から近代への変化に留意してその転換を記述し、近代という時代への関心が高まるようにした(第1号)。</p> <p>*「歴史資料と近代・現代の展望」では、みずから歴史資料を読みとって多角的に考察し、仮説を表現するための資料の例として、「五箇条の誓文」と近代・現代の日本の貿易についてのグラフを取り上げた(第2号)。</p> <p>*近代国家の成立や選挙権に関する叙述、また社会運動・労働運動、戦後の民主化の記述の中で、権利や義務、平等についても関心が高まるように配慮した(第3号)。</p> <p>*文化史は、時代背景や周辺諸国との交流とも関連付けて叙述し、伝統文化への理解や親しみが深まるよう、今日に伝わる文化財などは積極的に図版として取り上げた(第5号)。</p> <p>*2度の世界大戦や国連、冷戦の記述の中で、国際社会の平和について関心が高まるように配慮した(第5号)。</p>	<p>p. 219</p> <p>p. 220～370</p> <p>p. 220～231</p> <p>p. 232～235</p> <p>p. 236～255、 275～278、 286～288、 328～333</p> <p>p. 288～299、 315～316、 337～338</p> <p>p. 268～275、 311～326、 339～340</p>

<p>第17章 高度成長の時代</p> <p>1 55年体制</p> <p>2 経済復興から高度経済成長へ</p> <p>第18章 激動する世界と日本</p> <p>1 経済大国への道</p> <p>2 冷戦の終結と日本社会の変容</p> <p>現代日本の課題の探究</p> <p>様々な災害と日本</p>	<p>* 明治時代の産業革命や高度経済成長期の公害問題、SDGsについて触れるなど、生命の尊さや環境の保全の重要性にも配慮した(第4号)。</p> <p>* 「現代日本の課題の探究」では、様々な災害と日本の歴史を取り上げ、自ら課題を設定し、取り組むための例示とした。(第3号)</p>	<p>p. 287、351～352、p. 364</p> <p>p. 365～370</p>
---	--	--

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- * これまでの学習をさらに発展させられるように、中学校社会や歴史総合における学習をふまえた叙述となるように心掛けた。また、歴史総合の学習範囲とも重複する近代・現代については、構成・配列を工夫し、歴史総合における学習の成果を活用できるようにした。
- * 図版はできる限り大きく掲載した。また、地図・グラフ類の作成においては、色覚の個人差を問わず、多くの生徒に見やすいようにカラーユニバーサルデザインに配慮し、読み取りやすい表現方法での作図を心掛けた。
- * 本文やキャプションで使用した文字のフォントについては、文字のかたちがわかりやすく、読み間違いがおこりにくいユニバーサルデザインに対応した「UD書体」を採用した。
- * インターネット上に教科書ポータルサイトを設け、教科書に掲載された史料の現代語訳、重要年代と事項を確認できる年表、文字資料や動画・画像など歴史資料の一覧、を参照できるようにして、より深い学びにつなげられるようにした。
- * 本文の理解を助けるために注を付した。また、参照ページを付して、時代をまたがる事項などについて参照できるようにした。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-95	高等学校	地理歴史科	日本史探究	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

特色① 充実した記述で、歴史的な見方・考え方を養う

- *各部の冒頭に部扉を設け、学習に入る前に「原始・古代」「中世」「近世」「近代・現代」という各時代の特徴を簡潔に理解できるよう工夫した。また、部扉には略年表を設けて、時代の全体像がわかるよう配慮した。
- *本文叙述に関しては、歴史事象の背景や因果関係の説明を重視し、物事のつながり・関連性が理解できるようにした。歴史用語の羅列は避け、読みやすく、歴史の流れが捉えやすい叙述を心がけた。
- *日本文化の特色や形成過程が総合的に理解できるよう、文化史は時代背景と関連付けた叙述を重視した。
- *「歴史資料と原始・古代の展望」「歴史資料と中世の展望」「歴史資料と近世の展望」「歴史資料と近代・現代の展望」では、文字資料や絵画資料、遺物、統計・グラフ資料など多様な史資料を活用し、歴史を捉える力を養えるようにした。
- *「現代日本の課題の探究」では、一例として「様々な災害と日本」を取り上げ、災害という課題から、歴史を考える視点を例示した。

特色② 様々な問いや資料で、歴史的な理解や考察を促す

- *学習時の手がかりとして、各章の導入文に章全体にわたる「問い」をなげかけ、各章の学習の目的を明確にした。また、章末にも学習者の活動を促すための「問い」を配置した。これについて、各部のはじめの章(1章・5章・8章・11章)の章末では、「時代を通観する問い」を立てる指針となるよう配慮した。そのほかの章の章末では、「事象の意味や意義、関係性などを考察する」ため、あるいは「諸事象の解釈や画期を表現する」ための問いを設けた。
- *章の途中にも、適宜、「Q(問い)」を配置し、学習者が歴史に関わる事象を結び付けながら、それらを概念的な知識として獲得して理解を深めるとともに、学習の過程において思考力、判断力、表現力等の育

成を図ることができるよう工夫した。

- *本文の理解を促す資料を多数掲載し、視覚的にも歴史を理解できるよう配慮した。
- *写真や文字資料、グラフなどに、適宜、「読みといてみよう」と題した資料を読み取るコーナーを設け、資料の内容を読み取ったり（解釈）、説明したり、論述したりする活動を通して、知識・理解を深め、思考力、判断力、表現力等をより一層育成できるようにした。

特色③ 他科目との連携

- *中学校での歴史の学習をふまえ、高等学校での学習ではそれをベースに、さらに幅広く、深く歴史の知識を身につけられるよう工夫した。
- *内容の全体にわたって、資料の読み取りなど歴史総合で学習した歴史の学び方を活用する一方で、歴史総合の学習範囲とも重複する「第Ⅳ部 近代・現代」については、歴史総合で扱えなかった内容や資料を多く取り入れ、歴史総合とは異なる視点で歴史を捉えることができるよう工夫した。
- *内容の全体にわたって、国際環境や地理的条件などと関連付けて叙述するとともに、地図を多く掲載し、地理的な見方・考え方の育成にもつながるよう配慮した。
- *とくに「第Ⅳ部 近代・現代」の記述では、人々の権利と義務、国際社会の対立と協調、地球環境の問題など、現在につながる歴史的事象を取り上げ、公民科との連携に配慮した。

そのほかの工夫

- *より深い学びを促すため、関連する動画や画像、文字資料を参照できるよう、適宜、2次元コードを配置した。重要な文字資料については、より詳しい読み取りができるよう資料の全文を閲覧することができるようにした。絵画資料については、全体図や紙面に掲載した以外の部分を閲覧することができるようにした。
- *表見返しには「古代の行政区画」、表見返し裏には「干支、時刻と方位、度量衡」、裏見返しには「政党・政派の変遷」を設け、学習の中で参照しやすくした。
- *巻末には、本書の内容に合致した詳細な巻末年表を付し、学習の便宜を図った。また、充実した索引を設け、学習の振り返りをおこないやすいようにした。
- *振り仮名や参照ページなどを充実させ、生徒が自主的かつ積極的に学習できるよう工夫した。
- *掲載した資料に、所蔵者・提供者がある場合には、紙面上に明示することで、身近なところに歴史資料があることに気付かせるとともに、地域の資料から歴史を考えられるよう工夫した。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
<p>第Ⅰ部 原始・古代</p> <p>第1章 日本文化のあけぼの</p> <p>1 文化の始まり</p> <p>2 農耕社会の成立</p> <p>●歴史資料と原始・古代の展望</p> <p>①古代社会と海外との交流</p> <p>②木簡から古代国家を探る</p> <p>第2章 古墳とヤマト政権</p> <p>1 古墳文化の展開</p> <p>2 飛鳥の朝廷</p> <p>第3章 律令国家の形成</p> <p>1 律令国家への道</p> <p>2 平城京の時代</p> <p>3 律令国家の文化</p> <p>4 律令国家の変容</p> <p>第4章 貴族政治の展開</p> <p>1 摂関政治</p> <p>2 国風文化</p> <p>3 地方政治の展開と武士</p>	<p>A 原始・古代の日本と東アジア</p> <p>(1) 黎明期の日本列島と歴史的環境</p> <p>(2) 歴史資料と原始・古代の展望</p> <p>(3) 古代の国家・社会の展望と画期(歴史の解釈、説明、論述)</p>	<p>(p. 5～74)</p> <p>p. 6～19</p> <p>p. 20～23</p> <p>p. 24～36</p> <p>p. 37～61</p> <p>p. 62～74</p>	<p>4</p> <p>2</p> <p>4</p> <p>6</p> <p>4</p>
<p>第Ⅱ部 中世</p> <p>第5章 院政と武士の躍進</p> <p>1 院政の始まり</p> <p>2 院政と平氏政権</p> <p>●歴史資料と中世の展望</p> <p>絵画から中世社会を探る</p> <p>第6章 武家政権の成立</p> <p>1 鎌倉幕府の成立</p> <p>2 武士の社会</p> <p>3 モンゴル襲来と幕府の衰退</p> <p>4 鎌倉文化</p> <p>第7章 武家社会の成長</p>	<p>B 中世の日本と世界</p> <p>(1) 中世への転換と歴史的環境</p> <p>(2) 歴史資料と中世の展望</p> <p>(3) 中世の国家・社会の展望と画期(歴史の解釈、説明、論述)</p>	<p>(p. 75～136)</p> <p>p. 76～85</p> <p>p. 86～89</p> <p>p. 90～109</p> <p>p. 110～136</p>	<p>3</p> <p>2</p> <p>6</p> <p>7</p>

<ul style="list-style-type: none"> 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場 			
<p>第Ⅲ部 近世</p> <p>第8章 近世の幕開け</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 織豊政権 2 桃山文化 <p>●歴史資料と近世の展望 生類憐みの令からみる江戸時代の社会の変化</p> <p>第9章 幕藩体制の成立と展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化 <p>第10章 幕藩体制の動揺</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化 	<p>C 近世の日本と世界</p> <p>(1) 近世への転換と歴史的環境</p> <p>(2) 歴史資料と近世の展望</p> <p>(3) 近世の国家・社会の展望と画期(歴史の解釈、説明、論述)</p>	<p>(p. 137～218)</p> <p>p. 138～149</p> <p>p. 150～153</p> <p>p. 154～191</p> <p>p. 192～218</p>	<p>3</p> <p>2</p> <p>11</p> <p>8</p>
<p>第Ⅳ部 近代・現代</p> <p>第11章 近世から近代へ</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の発足 <p>●歴史資料と近代・現代の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ①五箇条の誓文と国是 ②貿易の変遷からみる日本の近代・現代 	<p>D 近現代の地域・日本と世界</p> <p>(1) 近代への転換と歴史的環境</p> <p>(2) 歴史資料と近代の展望</p>	<p>(p. 219～370)</p> <p>p. 220～p. 231</p> <p>p. 232～235</p>	<p>3</p> <p>2</p>

第12章 近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立	(3) 近現代の地域・日本と世界の 画期と構造	p. 236～255	5	
第13章 近代国家の展開 1 日清・日露戦争と国際関係 2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制		p. 256～278	6	
第14章 近代の産業と生活 1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民生活の変容と大衆文化		p. 279～299	6	
第15章 恐慌と第二次世界大戦 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦		p. 300～324	7	
第16章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和		p. 325～338	4	
第17章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度経済成長へ		p. 339～352	4	
第18章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の変容		p. 353～364	3	
現代日本の課題の探究 様々な災害と日本		(4) 現代の日本の課題の探究	p. 365～370	2
予備				1
			計	105

常用漢字以外の使用漢字一覧表

楔形 (p. 5)	尖頭器 (p. 8)	石槍 (p. 8)	竪穴住居 (p. 9)	石鋏 (p. 10)	石匙 (p. 10)	石錘 (p. 10)	馬蹄形 (p. 10)	石斧 (p. 10)	銛 (p. 10)
石鏃 (p. 10)	祭祀 (p. 11)	櫛 (p. 12)	竪杵 (p. 14)	畦 (p. 14)	錫 (p. 14)	鋤 (p. 14)	直播 (p. 14)	粃穀 (p. 14)	灌溉 (p. 14)
鉦 (p. 14)	蛤刃 (p. 15)	壺 (p. 15)	扁平 (p. 15)	甕 (p. 15)	楯築 (p. 16)	銅鐸 (p. 16)	扮した (p. 16)	卜骨 (p. 16)	銅戈 (p. 16)
環濠 (p. 17)	印綬 (p. 18)	巫女 (p. 18)	杳 (p. 21)	烏賊 (p. 22)	瓜 (p. 22)	捺印 (p. 22)	近江鮎 (p. 22)	藤甲贏 (p. 22)	雜鮓 (p. 22)
鯨 (p. 22)	贅 (p. 23)	埴輪 (p. 25)	葺石 (p. 25)	粘土槨 (p. 25)	鞞 (p. 25)	陪冢 (p. 25)	袴 (p. 30)	新嘗 (p. 30)	裳 (p. 30)
円錐形 (p. 30)	淵 (p. 30)	祓 (p. 31)	禊 (p. 31)	穢れ (p. 31)	奴婢 (p. 31)	甥 (p. 33)	樟 (p. 35)	半跏思惟 (p. 36)	伽藍 (p. 36)
积迦 (p. 36)	厨子 (p. 36)	刺繡 (p. 36)	編纂 (p. 38)	烽 (p. 38)	重祚 (p. 38)	神祇官 (p. 39)	公卿 (p. 39)	官衙 (p. 39)	蔭位の制 (p. 40)
杖 (p. 40)	祿 (p. 40)	雜徭 (p. 40)	答 (p. 40)	賤民 (p. 41)	朱雀大路 (p. 42)	蝦夷 (p. 44)	隼人 (p. 44)	蕃国 (p. 44)	夷狄 (p. 44)
飢饉 (p. 46)	寵愛 (p. 46)	白鳳 (p. 49)	漆喰 (p. 50)	篇 (p. 50)	菩薩 (p. 53)	綱索 (p. 53)	阿修羅 (p. 53)	五紘 (p. 54)	紫檀 (p. 54)
琵琶 (p. 54)	螺鈿 (p. 54)	碗 (p. 54)	屏風 (p. 54)	陀羅尼 (p. 54)	俘囚 (p. 56)	櫃 (p. 60)	弥勒 (p. 60)	柿葺 (p. 60)	祈禱 (p. 60)
八幡神 (p. 60)	智徳 (p. 61)	曼荼羅 (p. 61)	庇護 (p. 63)	勅撰 (p. 65)	嗜好 (p. 65)	垂迹 (p. 66)	蒔絵 (p. 67)	檜皮葺 (p. 67)	小柱 (p. 69)
田堵 (p. 70)	遙任 (p. 70)	棟梁 (p. 74)	枅 (p. 76)	榜示 (p. 79)	神輿 (p. 80)	鎧 (p. 80)	袈裟 (p. 80)	榭 (p. 80)	北嶺 (p. 80)
朝覲行幸 (p. 86)	山鉾 (p. 89)	上洛 (p. 91)	兵糧米 (p. 91)	謀叛人 (p. 92)	挽回 (p. 94)	惣領 (p. 97)	佃 (p. 97)	笠懸 (p. 97)	流鏑馬 (p. 97)
元寇 (p. 100)	按司 (p. 101)	荏胡麻 (p. 101)	湊 (p. 102)	鉦 (p. 105)	坐禅 (p. 106)	只管打坐 (p. 106)	吽形 (p. 108)	釉 (p. 109)	綸旨 (p. 111)
擾乱 (p. 112)	狼藉 (p. 112)	一揆 (p. 113)	蘇木 (p. 118)	惣掟 (p. 119)	下剋上 (p. 122)	鮎 (p. 123)	鵜飼 (p. 123)	苧 (p. 123)	暖簾 (p. 123)
楮 (p. 123)	桂女 (p. 124)	麴座 (p. 124)	廻船 (p. 125)	鯰 (p. 126)	襖絵 (p. 128)	同朋衆 (p. 128)	佗 (p. 128)	饅頭 (p. 131)	喧嘩 (p. 134)
胡椒 (p. 138)	太閤 (p. 143)	谷め (p. 143)	竣工 (p. 146)	獅子 (p. 147)	金箔 (p. 147)	楓 (p. 147)	金碧 (p. 147)	茅葺 (p. 148)	袂 (p. 148)

蹴鞠 (p. 158)	牢人 (p. 159)	禰宜 (p. 160)	鮫皮 (p. 161)	曳航 (p. 163)	草庵 (p. 165)	靈廟 (p. 165)	啓蒙 (p. 165)	庄屋 (p. 168)	溜池 (p. 169)
水吞 (p. 169)	粟 (p. 170)	稗 (p. 170)	厩肥 (p. 172)	蜜柑 (p. 172)	蕎麦 (p. 172)	荒蕪地 (p. 172)	犁 (p. 172)	耕耘 (p. 172)	鯉節 (p. 173)
蛋白源 (p. 173)	柚 (p. 173)	秣 (p. 173)	干し鮑 (p. 173)	水汲 (p. 174)	紙漉 (p. 174)	槌 (p. 175)	棹 (p. 176)	憐み (p. 178)	唐箕 (p. 179)
千石筵 (p. 179)	干鰯 (p. 180)	糠 (p. 180)	葡萄 (p. 180)	粕 (p. 180)	藺草 (p. 180)	晒 (p. 181)	鯛 (p. 181)	紬 (p. 181)	緞子 (p. 181)
金襴 (p. 181)	鯨 (p. 181)	大桶 (p. 182)	醬油 (p. 182)	駕籠 (p. 183)	筏 (p. 183)	疋 (p. 183)	菱垣 (p. 183)	樽 (p. 184)	秤量 (p. 184)
刃 (p. 184)	艘 (p. 186)	硯箱 (p. 191)	縮緬 (p. 191)	甘藷 (p. 193)	鳶 (p. 193)	櫨 (p. 193)	遊廓 (p. 195)	真鍮 (p. 197)	南鐮二朱銀 (p. 197)
蘭学 (p. 198)	洒落本 (p. 201)	画帖 (p. 203)	棄捐令 (p. 204)	味噌 (p. 208)	蔓延 (p. 208)	易地聘礼 (p. 208)	蟄居 (p. 209)	縞 (p. 211)	莫大 (p. 212)
蠟 (p. 212)	攘夷 (p. 214)	庚申講 (p. 218)	酒肴 (p. 218)	三戸虫 (p. 218)	盂蘭盆会 (p. 218)	瞽女 (p. 218)	閨 (p. 229)	五榜の揭示 (p. 229)	宸翰 (p. 232)
大輔 (p. 237)	工廠 (p. 240)	朔日 (p. 243)	煉瓦 (p. 244)	欽定憲法 (p. 248)	讒謗律 (p. 248)	輔弼 (p. 252)	総攬者 (p. 253)	臥薪嘗胆 (p. 259)	斡旋 (p. 263)
煩悶 (p. 265)	最後通牒 (p. 269)	趨勢 (p. 275)	廢墟 (p. 276)	兌換 (p. 279)	飛び籽 (p. 281)	廢娼運動 (p. 289)	闊歩 (p. 296)	耽美 (p. 298)	瀕して (p. 300)
淘汰 (p. 303)	急先鋒 (p. 303)	易幟 (p. 303)	殲滅 (p. 305)	傀儡 (p. 307)	匡救 (p. 308)	肩鉄 (p. 308)	蹶起 (p. 310)	敵愾心 (p. 319)	華僑 (p. 321)
挺身隊 (p. 321)	防空壕 (p. 322)	蔬菜 (p. 322)	凋落 (p. 325)	懺悔 (p. 326)	姦通罪 (p. 331)	対峙 (p. 333)	膠着 (p. 335)	銃鋼 (p. 345)	牽引 (p. 346)
舵 (p. 346)	拮抗 (p. 350)	終焉 (p. 355)	乖離 (p. 359)	逼迫 (p. 362)	救恤米 (p. 365)				

*地名・人名を含む固有名詞、地図中・資料中の語については、省略しました。

出 典 一 覧 表

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
表見返し	古代の行政区画	地図						著者作成
表見返し裏	干支	表						著者作成
表見返し裏	時刻と方位	図						著者作成
表見返し裏	度量衡	表						著者作成
裏見返し	政党・政派の変遷	図						著者作成
5	略年表	表						著者作成
6	人類の進化と地質年代	図						著者作成
7	更新世末期の日本列島	地図	『大系日本の歴史1 日本人の誕生』	21	佐原眞	小学館	1987	左記出典を元に著者作成
8	旧石器時代の石器と使用法	図						著者作成
9	縄文土器の変遷①(草創期)	写真						國學院大学博物館蔵
9	縄文土器の変遷②(早期)	写真						市立函館博物館蔵
9	縄文土器の変遷③(前期)	写真						南山大学人類学博物館蔵
9	縄文土器の変遷④(中期)	写真						井戸尻考古館蔵
9	縄文土器の変遷⑤(後期)	写真						京都大学総合博物館蔵、Kodansha/アフロ提供
9	縄文土器の変遷⑥(晩期)	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
10	縄文時代の道具①石鏃	写真						群馬県立歴史博物館蔵
10	縄文時代の道具②石鏃	写真						群馬県立歴史博物館蔵
10	縄文時代の道具③石匙	写真						国立歴史民俗博物館蔵
10	縄文時代の道具④打製石斧	写真						群馬県立歴史博物館蔵
10	縄文時代の道具⑤磨製石斧	写真						群馬県立歴史博物館蔵
10	縄文時代の道具⑥骨角器(釣針)	写真						東北大学考古学研究室蔵
10	縄文時代の道具⑦骨角器(銚)	写真						東北大学考古学研究室蔵
10	縄文時代の道具⑧石皿と磨石	写真						高山市教育委員会蔵
10	貝塚	図	『貝の花貝塚』	別図	八幡一郎ほか	松戸市教育委員会	1973	左記出典を元に著者作成
11	環状列石(上)	写真						大湯ストーンサークル館(鹿角市教育委員会)提供
11	環状列石(下)	写真						大湯ストーンサークル館(鹿角市教育委員会)提供
11	縄文時代のおもな遺跡と黒曜石の交易圏	地図	「黒曜石、サヌカイト製石器の産地推定による古文化交流の研究」『古文化財の自然科学的研究』		藁科哲男ほか	同朋舎出版	1984	左記出典などを元に著者作成
12	漆塗櫛	写真						桶川市歴史民俗資料館(桶川市教育委員会)蔵
12	土偶	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
12	石棒	写真						北海道立埋蔵文化財センター蔵
12	抜歯	写真						東京大学総合研究博物館蔵
13	弥生時代のおもな遺跡	地図						著者作成
13	「続縄文文化」の骨角器①釣針	写真						国(文化庁保管)、伊達市教育委員会(噴火湾文化研究所)提供
13	「続縄文文化」の骨角器②釣針	写真						国(文化庁保管)、伊達市教育委員会(噴火湾文化研究所)提供
13	「続縄文文化」の骨角器③銚頭	写真						国(文化庁保管)、伊達市教育委員会(噴火湾文化研究所)提供
13	「続縄文文化」の骨角器④銚頭	写真						国(文化庁保管)、伊達市教育委員会(噴火湾文化研究所)提供
13	「続縄文文化」の骨角器⑤槍	写真						国(文化庁保管)、伊達市教育委員会(噴火湾文化研究所)提供
13	「続縄文文化」の骨角器⑥スプーン	写真						国(文化庁保管)、伊達市教育委員会(噴火湾文化研究所)提供
13	「続縄文文化」の骨角器⑦スプーン	写真						国(文化庁保管)、伊達市教育委員会(噴火湾文化研究所)提供
13	「続縄文文化」の骨角器⑧スプーン	写真						国(文化庁保管)、伊達市教育委員会(噴火湾文化研究所)提供
14	弥生時代前期の水田跡(田村遺跡)	写真						高知県立埋蔵文化財センター提供
15	弥生時代の農具製作作用の石器と農具①大型蛤刃石斧	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
15	弥生時代の農具製作作用の石器と農具①大型蛤刃石斧	図						著者作成
15	弥生時代の農具製作作用の石器と農具②柱状片刃石斧	写真						唐津市教育委員会蔵
15	弥生時代の農具製作作用の石器と農具②柱状片刃石斧	図						著者作成
15	弥生時代の農具製作作用の石器と農具③扁平片刃石斧	写真						唐津市教育委員会蔵
15	弥生時代の農具製作作用の石器と農具③扁平片刃石斧	図						著者作成
15	弥生時代の農具製作作用の石器と農具④石包丁	写真						福岡市埋蔵文化財センター蔵
15	弥生時代の農具製作作用の石器と農具④石包丁	図						著者作成
15	弥生時代の農具製作作用の石器と農具⑤鍬	図						著者作成
15	弥生時代の農具製作作用の石器と農具⑥鋤	図						著者作成
15	弥生時代の農具製作作用の石器と農具⑦鋤	図						著者作成
15	前期の弥生土器①壺形土器(小)	写真						福岡市埋蔵文化財センター蔵、国立歴史民俗博物館提供
15	前期の弥生土器②壺形土器(大)	写真						福津市教育委員会蔵、国立歴史民俗博物館提供
15	前期の弥生土器③甕形土器	写真						福津市教育委員会蔵、国立歴史民俗博物館提供

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
15	前期の弥生土器④高杯形土器	写真						福津市教育委員会蔵、国立歴史民俗博物館提供
15	甕棺墓	写真						福岡市提供
15	人骨	写真						筑紫野市教育委員会蔵
16	四隅突出型墳丘墓(復元模型)	写真						島根県立古代出雲歴史博物館蔵
16	弥生時代中期の青銅製祭器の分布	地図						著者作成
16	弥生時代中期の青銅製祭器の分布①中広形銅矛	写真						国(文化庁保管)、古代出雲歴史博物館提供
16	弥生時代中期の青銅製祭器の分布②中広形銅戈	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
16	弥生時代中期の青銅製祭器の分布③平形銅劍	写真						京都国立博物館蔵
16	弥生時代中期の青銅製祭器の分布④銅鐸	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
16	弥生土器に描かれた鳥に扮した人物	写真						橿原市(歴史に憩う橿原市博物館)蔵
17	荒神谷遺跡の銅矛・銅鐸出土状況	写真						島根県教育庁埋蔵文化財調査センター提供
17	銅鐸にみえる絵(脱穀)	写真						神戸市立博物館蔵
17	銅鐸にみえる絵(シカと狩人)	写真						神戸市立博物館蔵
17	吉野ヶ里遺跡	写真						佐賀県提供
18	金印	写真						福岡市博物館蔵、画像提供:福岡市博物館/DNPartcom
18	金印(印面)	写真						福岡市博物館蔵、画像提供:福岡市博物館/DNPartcom
18	『漢書』地理志	史料	『漢書』	地理志				原漢文
18	『後漢書』東夷伝	史料	『後漢書』	東夷伝				原漢文
19	「魏志」倭人伝	史料	『三国志』	「魏志」倭人伝				原漢文
20	「魏志」倭人伝	写真	『百衲本二十四史』三国志		商務印書館		1931	
20	『宋書』倭国伝の倭王武の上表文	写真	『百衲本に二十四史』宋書		商務印書館		1933	
20	広開土王碑拓本	写真						東京国立博物館、Image:TNM Image Archives
21	稲荷山古墳出土の鉄劍の銘文「辛亥年…乎獲居臣…」	写真						国(文化庁保管)、埼玉県立さきたま史跡の博物館提供
21	江田船山古墳出土の鉄刀の銘文「典曹人名無利弓」	写真						東京国立博物館、Image:TNM Image Archives
21	江田船山古墳の副葬品の金銅製品(冠)	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
21	江田船山古墳の副葬品の金銅製品(沓)	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
21	江田船山古墳の副葬品の金銅製品(耳飾り)	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
21	岩戸山古墳の石人	写真						八女市教育委員会(八女市岩戸山歴史文化交流館)蔵
22	木簡①長屋王家木簡	写真						奈良文化財研究所蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
22	木簡②長屋王家木簡	写真						奈良文化財研究所蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
23	木簡③平城宮木簡	写真						奈良文化財研究所蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
23	木簡③平城宮木簡(裏)	写真						奈良文化財研究所蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
23	木簡④平城宮木簡	写真						奈良文化財研究所蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
23	木簡⑤平城宮木簡	写真						奈良文化財研究所蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
23	木簡⑥平城宮木簡	写真						奈良文化財研究所蔵
23	木簡をくくりつけた荷物	写真						三重県埋蔵文化財センター提供
24	箸墓古墳	写真						梅原章一提供
25	埴輪が並べられた古墳	写真						フォトライブラリー提供
25	竪穴式石室(雪野山古墳)	写真						東近江市埋蔵文化財センター提供
25	大仙陵古墳	写真						堺市提供
25	三角縁神獣鏡	写真						国(文化庁保管)、奈良県立橿原考古学研究所提供
25	鉄製の武具(短甲)	写真						姫路市教育委員会(姫路市埋蔵文化財センター)蔵
25	鉄製の武具(かぶと)	写真						姫路市教育委員会(姫路市埋蔵文化財センター)蔵
26	広開土王碑	写真						著者提供
26	古墳時代中期の大型前方後円墳	地図						著者作成
27	4～5世紀の東アジア	地図						著者作成
27	倭王武の上表文	史料	『宋書』	倭国伝				原漢文
27	倭の五王と天皇	系図						著者作成
27	稲荷山古墳出土鉄劍と銘文(全体)	写真						国(文化庁保管)、埼玉県立さきたま史跡の博物館提供
27	稲荷山古墳出土鉄劍と銘文(部分)	写真						国(文化庁保管)、埼玉県立さきたま史跡の博物館提供
28	仏教の伝播	地図						著者作成
28	横穴式石室(牧野古墳)	写真						奈良県立橿原考古学研究所提供
29	竹原古墳石室壁画	写真						宮若市教育委員会提供
29	埴輪(家形埴輪)	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
29	埴輪(人物埴輪)	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
29	群集墳	写真						梅原章一提供
29	古墳時代の豪族居館(復元模型)	写真						高崎市教育委員会(かみつけの里博物館)蔵

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
29	古墳時代の屋敷地(復元模型)	写真						国立歴史民俗博物館蔵
30	福岡県沖ノ島	写真						「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会提供
30	沖ノ島の島内祭祀場の巨石群(模型)	写真						国立歴史民俗博物館蔵
30	土師器	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
30	須恵器	写真						豊田市郷土資料館蔵
31	島根県岡田山1号墳出土の大刀	写真						六所神社蔵、島根県古代文化センター提供
33	6世紀の朝鮮半島	地図						著者作成
33	憲法十七条	史料	『日本書紀』					原漢文
34	天皇家と蘇我氏の関係系図	系図						著者作成
34	遣隋使の派遣(開皇二十年・大業三年) 遣隋使の派遣(推古天皇十五年)	史料	『隋書』 『日本書紀』	倭国伝				原漢文 原漢文
35	法隆寺百済観音像	写真						法隆寺蔵、飛鳥園提供
35	法隆寺玉虫厨子	写真						法隆寺蔵、奈良国立博物館提供
35	法隆寺金堂釈迦三尊像	写真						法隆寺蔵、奈良国立博物館提供
35	法隆寺の西院	写真						法隆寺、梅原章一提供
36	中宮寺天寿国繡帳	写真						中宮寺蔵、奈良国立博物館提供
36	中宮寺半跏思惟像	写真						中宮寺蔵、奈良国立博物館提供
37	改新の詔	史料	『日本書紀』					原漢文
39	藤原京の条坊復元図	図						著者作成
40	律令官制表	表						著者作成
40	公民の税負担	表	『養老令』					左記出典を元に著者作成
41	8世紀中頃の東アジアと日唐交通路	地図						著者作成
42	平城京図	図						著者作成
42	平城宮図	図						著者作成
43	長屋王邸(復元模型)	写真						奈良文化財研究所蔵
43	庶民の住宅(復元模型)	写真						奈良文化財研究所蔵
43	富本銭	写真						奈良文化財研究所蔵
43	和同開珎	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
44	下野国庁(復元模型)	写真						栃木県蔵
44	武蔵国都筑郡家(想定復元模型)	写真						横浜市歴史博物館蔵
45	多賀城跡(復元模型)	写真						東北歴史博物館蔵
45	天皇家と藤原氏の関係系図(1)	系図						著者作成
46	国分寺建立の詔	史料	『続日本紀』					原漢文
46	大仏造立の詔	史料	『続日本紀』					原漢文
47	8世紀の政情	表						著者作成
48	三世一身法	史料	『続日本紀』					原漢文
48	墾田永年私財法	史料	『続日本紀』					原漢文
48	条里制図	図						著者作成
48	東大寺領糞置荘開田図	写真						正倉院宝物(宮内庁正倉院事務所)
49	薬師寺金堂薬師三尊像(本尊)	写真						薬師寺蔵、飛鳥園提供
49	薬師寺金堂薬師三尊像(左脇侍)	写真						薬師寺蔵、飛鳥園提供
49	薬師寺金堂薬師三尊像(右脇侍)	写真						薬師寺蔵、飛鳥園提供
49	薬師寺東塔	写真						薬師寺提供
50	興福寺仏頭	写真						興福寺蔵、飛鳥園提供
50	論語木簡(全体)	写真						徳島県立埋蔵文化財総合センター蔵
50	論語木簡(拡大)	写真						徳島県立埋蔵文化財総合センター蔵
50	高松塚古墳壁画	写真						国(文部科学省所管)、明日香村教育委員会提供
51	『万葉集』——貧窮問答歌	史料	『万葉集』					原典は万葉仮名
52	鑑真像	写真						唐招提寺蔵、奈良国立博物館提供
53	興福寺阿修羅像	写真						興福寺蔵、飛鳥園提供
53	東大寺法華堂不空罽索観音像	写真						東大寺蔵
53	東大寺法華堂執金剛神像	写真						東大寺蔵 田中真知郎提供
54	螺鈿紫檀五絃琵琶	写真						正倉院宝物(宮内庁正倉院事務所)
54	正倉院宝庫	写真						正倉院正倉(宮内庁正倉院事務所)、田中真知郎提供
54	過去現在絵因果経	写真						東京藝術大学蔵、 画像提供:東京藝術大学/DNPartcom提供
54	薬師寺吉祥天像	写真						薬師寺蔵、田中真知郎提供
55	平安京図	図						著者作成

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
56	東北地方の城柵	地図						著者作成
57	天皇家と藤原氏の関係系図(2)	系図						著者作成
59	最澄	写真						一乗寺蔵、奈良国立博物館提供
59	空海	写真						東寺(教王護国寺)蔵、京都国立博物館提供
60	室生寺金堂	写真						室生寺蔵、奈良国立博物館提供
60	室生寺釈迦如来坐像	写真						室生寺蔵、奈良国立博物館提供
61	教王護国寺両界曼荼羅(胎藏界)	写真						東寺(教王護国寺)蔵、京都国立博物館提供
61	観心寺如意輪観音像	写真						観心寺蔵、飛鳥園提供
61	風信帖	写真						東寺(教王護国寺)蔵、京都国立博物館提供
63	天皇家と藤原氏の関係系図(3)	系図						著者作成
64	藤原氏の栄華	史料	『小右記』		藤原実資			原漢文
64	10～11世紀の東アジア	地図						著者作成
65	かな文字の発達	図						著者作成
66	空也像	写真						六波羅蜜寺蔵、浅沼光晴提供
66	『往生要集』の序文	史料	『往生要集』		源信			原漢文
66	平等院鳳凰堂阿弥陀如来像	写真						平等院蔵
67	寝殿造(東三条殿、復元模型)	写真						国立歴史民俗博物館蔵
67	平等院鳳凰堂扉絵	写真						平等院蔵
67	片輪車螺鈿蒔絵手箱	写真						東京国立博物館、Image:TNM Image Archives
68	阿弥陀聖衆来迎図(高野山)	写真						高野山有志八幡講十八箇院蔵、高野山霊宝館提供
68	平等院鳳凰堂	写真						平等院提供
68	藤原道長埋納経筒	写真						金峯神社蔵、京都国立博物館提供
68	藤原道長埋納経筒(部分拡大)	写真						金峯神社蔵、京都国立博物館提供
68	寄木造の手法	図						著者作成
69	東帯・女房装束・水干	図						著者作成
70	阿波国板野郡田上郷の902(延喜2)年の戸籍	写真						国(文化庁保管)、 徳島市教育委員会(徳島市徳島城博物館)提供
71	国司の暴政——尾張国郡司百姓等解	史料	尾張国郡司百姓等解					原漢文
72	荘園の絵図	写真						神護寺蔵、京都国立博物館提供
72	荘園の寄進(図)	図	東寺百合文書					左記出典を元に著者作成
73	兵の家の構造	図						著者作成
73	門番をする武士	写真	『粉河寺縁起絵巻』					粉河寺蔵
74	将門の首を運ぶ藤原秀郷の隊列	写真	『倭藤太絵巻』					金戒光明寺蔵、京都国立博物館提供
75	略年表	表						著者作成
76	記録荘園券契所の設置	史料	『愚管抄』		慈円			
77	院政の開始	史料	『中右記』		藤原宗忠			原漢文
77	院政関係略系図	系図						著者作成
77	法勝寺(復元模型)	写真						京都市歴史資料館蔵
79	荘園公領制の仕組み	図						著者作成
79	能登国の荘園と公領	地図	『日本歴史大系1 原始・古代』	909	井上光貞ほか編	山川出版社	1984	左記出典を元に著者作成
80	僧兵	写真	『天狗草子』					東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
81	源氏略系図(1)	系図						著者作成
81	平氏略系図	系図						著者作成
81	保元の乱関係図	図						著者作成
81	平治の乱関係図	図						著者作成
82	蓮華王院本堂内部	写真						蓮華王院(妙法院)提供
82	平氏の知行国	地図	『大系日本の歴史5 鎌倉と京』	55	五味文彦	小学館	1988	左記出典を元に著者作成
82	平氏の繁栄	史料	『平家物語』					
83	青磁鳳凰耳花生	写真						和泉市久保惣記念美術館蔵
83	毛越寺(復元模型)	写真						藤島亥治郎復元設計、平泉文化史館蔵
84	中尊寺金色堂内陣	写真						中尊寺蔵
84	富貴寺大堂	写真						豊後高田市商工観光課提供
84	『扇面古写経』	写真						四天王寺蔵
84	『伴大納言絵巻』	写真						出光美術館蔵
85	巖島神社『平家納経』	写真						巖島神社蔵、田中真知郎提供
85	『信貴山縁起絵巻』(飛倉の巻)	写真						朝護孫子寺蔵
86-87	『年中行事絵巻』(朝観行幸の図)	写真						田中家蔵
86-87	『一遍上人絵伝』(四條京極の釈迦堂の図)	写真						東京国立博物館、Image:TNM Image Archives
88-89	『洛中洛外図屏風』	写真						米沢市(上杉博物館)蔵

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
90	源平の争乱	表						著者作成
91	鎌倉周辺図	地図						著者作成
92	鎌倉幕府の機構(頼朝時代)	図						著者作成
93	公武二元支配の機構	図						著者作成
94	北条氏略系図	系図						著者作成
95	執権政治の確立	表						著者作成
95	源氏略系図(2)	系図						著者作成
95	天皇家略系図	系図						著者作成
95	鎌倉幕府の機構(執権時代)	図						著者作成
96	御成敗式目	史料	御成敗式目					原漢文
96	式目制定の趣旨——北条泰時書状	史料	御成敗式目唯浄裏書					
96	訴訟制度の仕組み	図						著者作成
97	武士の館	図						著者作成
98	笠懸	写真	『男衾三郎絵巻』					東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
98	伯耆国東郷荘の下地中分図	写真						東京大学史料編纂所蔵
99	13世紀半ばの東アジア	地図						著者作成
99	元軍との陸戦の図	写真	『蒙古襲来絵詞』					皇居三の丸尚蔵館蔵
100	石築地跡	写真						福岡市提供
100	モンゴル襲来関係図	地図						著者作成
101	琉球の三山分立	地図						著者作成
102	備前国福岡の市	写真	『一遍上人絵伝』					清浄光寺(遊行寺)蔵
103	紀伊国阿氏河荘民の訴状	史料	高野山文書					
103	永仁の徳政令	史料	東寺百合文書					原漢文
103	借上	写真	『山王靈験記絵巻』					和泉市久保惣記念美術館蔵
105	新仏教の宗派一覧	表						著者作成
105	踊念仏	写真	『一遍上人絵伝』					東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
105	悪人正機——『歎異抄』	史料	『歎異抄』		唯円			
107	琵琶法師	写真	『慕帰絵詞』					本願寺(西本願寺)蔵
108	東大寺南大門	写真						東大寺提供
108	円覚寺舍利殿	写真						円覚寺提供
108	東大寺南大門金剛力士像	写真						東大寺蔵、田中真知郎提供
109	『春日権現験記絵』	写真						皇居三の丸尚蔵館蔵
109	赤糸威鎧	写真						武蔵御嶽神社蔵
110	後醍醐天皇	写真						清浄光寺(遊行寺)蔵
110	天皇家略系図	系図						著者作成
111	二条河原落書	史料	『建武年間記』					
113	一三五二年の半済令	史料	『建武以来追加』					原漢文
113	守護大名の分布と戦乱	地図						著者作成
114	傘連判状	写真						毛利博物館蔵
114	室町幕府の機構	図						著者作成
115	足利氏略系図	系図						著者作成
116	15世紀頃の東アジア	地図						著者作成
117	中世後期の日明・日朝関係略年表	表						著者作成
117	倭寇の図	写真	『倭寇図巻』					東京大学史料編纂所蔵
118	首里城	写真						沖縄美ら島財団提供
119	道南十二館と周辺図	地図						著者作成
119	惣掟	史料	今堀日吉神社文書					
120	正長の徳政一揆	史料	『大乘院日記目録』					原漢文
120	柳生の徳政碑文	写真						桑原英文提供
121	将軍家関係図	図						著者作成
121	応仁の乱の対立関係	図						著者作成
121	足輕	写真	『真如堂縁起』					真正極楽寺蔵
122	山城国一揆	史料	『大乘院寺社雑事記』					原漢文
122	加賀の一向一揆	史料	『蔭涼軒日録』 『実悟記拾遺』					原漢文
123	見世棚	写真	『洛中洛外図屏風』					国立歴史民俗博物館蔵
123	室町時代の行商人(大原女)	図	『七十一番職人歌合』					左記出典を元に作成
123	室町時代の行商人(桂女)	図	『福富草子』					左記出典を元に作成
124	明銭(永楽通宝)	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
124	明銭(洪武通宝)	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
124	私鑄銭(開元通宝)	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
124	私鑄銭(永楽通宝)	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
124	火災で焼け残った土蔵	写真	『春日権現験記絵』					皇居三の丸尚蔵館蔵
125	関所を通る馬借	写真	『石山寺縁起絵巻』					石山寺蔵
126	瓢鮎図	写真						妙心寺退蔵院蔵、京都国立博物館提供
126	鹿苑寺金閣	写真						鹿苑寺提供
127	観世能の図	写真	『洛中洛外図屏風』					国立歴史民俗博物館蔵
128	慈照寺銀閣	写真						慈照寺提供
128	慈照寺東求堂同仁齋	写真						慈照寺提供
128	大徳寺大仙院庭園	写真						大徳寺大仙院提供
129	大徳寺大仙院花鳥図	写真						大徳寺大仙院蔵、京都国立博物館提供
129	秋冬山水図	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
130	風流	写真	『洛中洛外図屏風』					米沢市(上杉博物館)蔵
131	『節用集』	写真						国立国会図書館デジタルコレクション
133	戦国大名の勢力範囲とおもな分国法・家訓	地図						著者作成
134	分国法	史料	朝倉孝景条々 甲州法度之次第 今川仮名目録 塵芥集					原漢文
135	山科寺内町	図	『日本都市史研究』	107	西川幸治	日本放送協会	1972	左記出典を元に著者作成
135	自由都市堺について——カスバル＝ヴィレラ書簡	史料	『耶蘇会士日本通信』上巻	26・55～56	村上直次郎訳・渡邊世祐註	聚芳閣	1927	国立国会図書館デジタルコレクション
136	住吉の祭り	写真	『住吉祭礼図屏風』					堺市博物館蔵
137	略年表	表						著者作成
138	豊臣秀吉	写真						高台寺(掌美術館)蔵
139	1600年前後の世界と日本人の往来	地図						著者作成
139	種子島銃	写真						種子島時邦蔵、種子島開発総合センター提供
140	信長「天下布武」の印影	写真						東京大学史料編纂所蔵
140	南蛮人と南蛮寺	写真	『南蛮屏風』					南蛮文化館蔵
141	鉄砲隊の活躍	写真	『長篠合戦図屏風』					徳川美術館蔵、 ©徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom
141	楽市令	史料	近江八幡市共有文書					原漢文
142	信長・秀吉の統一過程	地図						著者作成
142	聚楽第	写真	『聚楽第図屏風』					三井記念美術館蔵
143	太閤検地尺	写真						尚古集成館蔵
143	天正大判	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
144	刀狩令	史料	『大日本古文書 家わけ第11-1(小早川家文書)』	#503(479～481)	東京帝国大学文学部史料編纂掛	東京帝国大学	1927	国立国会図書館デジタルコレクション
144	奥州平定と太閤検地	史料	『大日本古文書 家わけ第2(浅野家文書)』	#59(81～82)	東京帝国大学文学部史料編纂掛	東京帝国大学	1906	国立国会図書館デジタルコレクション
145	バテレン追放令	史料	松浦文書					
146	文禄・慶長の役関係図	地図						著者作成
146	姫路城(白鷺城)	写真						姫路市フォトバンク提供
147	『唐獅子図屏風』	写真						皇居三の丸尚蔵館蔵
147	智積院襖絵(楓図)	写真						智積院蔵
147	都久夫須麻神社本殿	写真						都久夫須麻神社、滋賀県文化スポーツ部文化財保護課提供
148	阿国歌舞伎	写真	『国女歌舞伎絵詞』					京都大学附属図書館蔵
148	妙喜庵茶室(待庵)	写真						妙喜庵、便利堂提供
149	『南蛮屏風』(右隻)	写真						神戸市立博物館蔵
149	天草版『平家物語』	写真						大英図書館蔵、ユニフォトプレス提供
150	史料1	史料	『正宝事録』第1巻	#713	近世史料研究会編輯	日本学術振興会	昭和39年	
150	高札	写真	『江戸図屏風』					国立歴史民俗博物館蔵
150	生類憐みの令	表						著者作成
151	史料2	史料	『正宝事録』第1巻	#776	近世史料研究会編輯	日本学術振興会	昭和39年	
151	捨て子	写真	『金父母』		鳥居清経		1777	国立国会図書館蔵
151	史料3	史料	『諸艶大鑑』		井原西鶴		貞享元年(1684)	国立国会図書館デジタルコレクション
152	史料4(服忌令)	史料	『御触書寛保集成』					
152	服忌令の服喪・忌引の期間の例	表	『御触書寛保集成』					左記出典を元に著者作成
152	17世紀の東アジアの動き	地図						著者作成
153	19世紀初めに描かれた江戸の町の風景	写真	『熙代勝覧』					ベルリン国立アジア美術館蔵、 フジメディアテクノロジー提供

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
154	徳川氏略系図	系図						著者作成
155	方広寺の鐘と鐘銘	写真						方広寺蔵、佐藤英世提供
155	武家諸法度(元和令)	史料	『御触書寛保集成』					
156	大名の配置(1664年頃)	地図						著者作成
157	武家諸法度(寛永令)	史料	『御触書寛保集成』					
157	江戸幕府の職制	図						著者作成
158	禁中並公家諸法度	史料	『大日本史料 第12編之22』	161～164	東京帝国大学	東京帝国大学	1920	国立国会図書館デジタルコレクション
159	天皇家略系図	系図						著者作成
159	原城を攻める幕府軍	写真	「寛永十五年肥前島原陣之図」					慶應義塾図書館蔵
161	おもな朱印船渡航地と日本町	地図						著者作成
161	寛永十二年禁令	史料	『教令類纂』					
161	寛永十六年禁令	史料	『御当家令条』					
162	対外関係の推移	表						著者作成
163	長崎港之図	写真						長崎歴史文化博物館蔵
165	琉球使節の江戸参府	写真	『琉球中山王両使者登城行列図』					国立公文書館蔵
164	和人の進出	地図						著者作成
164	日本からみた外交秩序	図						著者作成
165	アイヌの参賀の礼	写真	『蝦夷国風図絵』					函館市中央図書館蔵
165	桂離宮	写真						宮内庁京都事務所提供
165	日光東照宮陽明門	写真						日光東照宮提供
166	『彦根屏風』	写真						彦根城博物館蔵、 画像提供:彦根城博物館/DNPartcom提供
166	『風神雷神図屏風』	写真						建仁寺蔵、京都国立博物館提供
166	色絵花鳥文深鉢	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
166	色絵花鳥文深鉢(部分拡大)	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
167	衣食にみる身分の差	写真	『老農夜話』					東京大学史料編纂所蔵
169	村の構造	図						著者作成
170	村々への法令	史料	『御当家令条』					
170	田畑永代売買を禁ずる法令	史料	『御触書寛保集成』					
171	城下町会津若松	図	『図集日本都市史』		高橋康夫・吉田伸之・宮本雅明・伊藤毅編	東京大学出版会	1993	左記出典を元に著者作成
171	町と町屋敷の模式図	図						著者作成
172	国絵図に描かれた樺海	写真						国立公文書館蔵
173	木曾での伐木	写真	『木曾式伐木運材図会』					林野庁中部森林管理局蔵
174	院内銀山	写真	『院内銀山鋪岡略絵図』					秋田大学大学院国際資源学研究所附属鉱業 博物館蔵、秋田大学附属図書館提供
176	明暦の大火	写真	『江戸火事図巻』					東京都江戸東京博物館蔵
177	武家諸法度(天和令)	史料	『御触書寛保集成』					
180	農具と農作業	図	『農具便利論』『農業全書』『成形図説』『和漢 三才図絵』『民家検労図』『老農夜話』					左記出典を元に著者作成
181	「鯉釣り之図」	写真	『三重県水産図解』					三重県総合博物館蔵
181	おもな特産品	表						著者作成
182	「下総国醤油製造之図」	写真	『大日本物産図会』					野田市立興風図書館蔵
183	江戸時代の交通	地図						著者作成
185	金貨成分比の推移	グラフ	『日本通貨変遷図鑑』	11～14	大蔵財務協会編	大蔵財務協会	1955	左記出典を元に著者作成
185	小判	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
185	丁銀	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
185	一分銀	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
185	一朱銀	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
185	寛永通宝	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
185	豆板銀	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
185	初期の藩札	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
186	新酒番船	写真	『新酒番船入津繁栄図』					東京都江戸東京博物館蔵
186	堂島の米市場	写真	『浪花名所図会』					大阪府立中之島図書館蔵
187	駿河町の越後屋呉服店	写真						株式会社三越伊勢丹蔵
188	『曾根崎心中』の口上番付	写真	『牟芸古雅志』					国立国会図書館デジタルコレクション
189	儒学者系統図	系図						著者作成
190	『紅白梅図屏風』	写真						MOA美術館蔵
190	見返り美人図	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
191	六義園	写真						六義園(六義園サービスセンター)提供

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
191	八橋蒔絵螺鈿硯箱	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
191	色絵藤花文茶壺	写真						MOA美術館蔵
192	上げ米の令	史料	『御触書寛保集成』					
193	幕領の石高と年貢収納高	グラフ	『角川新版日本史辞典』	1332～1337	朝尾直弘ほか編	角川書店	1996	左記出典を元に著者作成
194	町火消	写真	『火消千組之図大絵馬』					成田山靈光館蔵
195	百姓一揆勢の「大より」	写真	『夢の浮橋』					致道博物館蔵
196	百姓一揆の推移	グラフ	『百姓一揆総合年表』	28～32、34	青木虹二	三一書房	1971	左記出典を元に著者作成
196	天明の飢饉	写真	『天明飢饉之図』					福島県会津美里町教育委員会蔵
197	長崎貿易	写真	『蘭館絵巻』					長崎歴史文化博物館蔵
197	南鐐二朱銀(表)	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
197	南鐐二朱銀(裏)	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
198	蘭学者系統図	系図						著者作成
199	『解体新書』	写真						学習院大学史料館蔵
199	国学者系統図	系図						著者作成
200	心学道話をきく子どもたち	写真	『前訓』	挿図				安永2年版 明倫舎蔵
200	身分社会への批判	史料	『自然真営道』		安藤昌益			
201	寺子屋の開業数	グラフ	『国史大辞典』9巻	919		吉川弘文館	1988	左記出典を元に著者作成
201	耕書堂	写真	『画本東都遊』					国立国会図書館デジタルコレクション
202	川柳——『誹風柳多留』	史料	『誹風柳多留』					
202	狂歌	史料			宿屋飯盛・蜀山人			
202	三十六歌仙「僧正遍昭」	写真						メトロポリタン美術館蔵
202	扇屋内蓬萊仙	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
202	初代尾上松助の松下造酒之進	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
203	『十便十宜図』より「灌園便」	写真						川端康成記念会蔵、日本近代文学館提供
203	『十便十宜図』より「宜秋」	写真						川端康成記念会蔵、日本近代文学館提供
204	人足寄場	図	『大日本近世史料 市中取締類集27』	138	東京大学史料編纂所編	東京大学出版会	2006	左記出典を元に著者作成
205	聖堂学問所での講義	写真	『聖堂講釈図』					東京大学史料編纂所蔵
205	海防論	史料	『海国兵談』		林子平			
205	寛政の改革への風刺	史料	『江戸時代落書類聚』など					
206	北方探査関係図	地図						著者作成
207	列強の接近関係図	地図						著者作成
207	異国船打払令	史料	『御触書天保集成』					
209	大塩勢の蜂起	写真	『出潮引汐奸賊聞集記』					大阪歴史博物館蔵
210	人返しの法	史料	『牧民金鑑』		荒井顕道			
210	株仲間の解散	史料	『江戸町触集成』13	447	近世史料研究会編	塙書房	2000	
211	結城縞の生産	写真	『尾張名所図会』					国立公文書館蔵
213	佐賀藩が設置した反射炉(考証復元図)	写真						鍋島報効会蔵
214	貿易論	史料	『経世秘策』		本多利明			
215	大日本沿海輿地全図	写真						国立国会図書館蔵
216	「富嶽三十六景 山下白雨」	写真						山口県立萩美術館・浦上記念館蔵
216	「朝比奈小人嶋遊」	写真						たばこと塩の博物館蔵
217	鷹見泉石像	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
217	歌川広重筆「名所江戸百景 亀戸梅屋舗」	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
217	ゴッホ画「ジャポネズリー、花咲く梅の木(広重を模して)」	写真						ファン＝ゴッホ美術館蔵、ユニフォトプレス提供
218	相撲の興行	写真						日本相撲協会蔵
219	略年表	表						著者作成
220	列強のアジア進出	地図						著者作成
221	オランダ国王の開国勸告	史料	『通航一覽続編』					
222	ペリーの横浜上陸	写真						横浜開港資料館蔵
223	日米修好通商条約	史料	『大日本古文書 幕末外国関係文書20』	#194(476～480)	東京帝国大学文学部史料編纂掛	東京帝国大学	1930	
223	日米修好通商条約の貿易章程における関税率	表	『大日本古文書 幕末外国関係文書20』	#194(492～493)	東京帝国大学文学部史料編纂掛	東京帝国大学	1930	左記出典を元に著者作成
223	輸出入額の変遷	グラフ	『幕末貿易史の研究』	52～54	石井孝	日本評論社	1944	左記出典を元に著者作成
224	天保小判	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
224	万延小判	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
225	桜田門外の変	写真						茨城県立図書館蔵(茨城県立歴史館保管)
226	四国艦隊による下関砲台の占領	写真						横浜開港資料館蔵
226	幕末の動き	表						著者作成
228	王政復古の大号令	史料	『法令全書』	6		内閣官報局	慶応3年12月	国立国会図書館デジタルコレクション
228	政体書による中央官制	図						著者作成

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
229	五箇条の誓文の草案	写真						宮内庁書陵部蔵
229	五榜の掲示	史料	『法令全書』	66～67		内閣官報局	明治元年3月	国立国会図書館デジタルコレクション
229	五榜の掲示の高札	写真						明治大学博物館蔵
230	「ええじゃないか」	写真						三重県総合博物館蔵
232	五箇条の誓文	史料	『法令全書』	64		内閣官報局	明治元年3月	国立国会図書館デジタルコレクション
232	宸翰	史料	『法令全書』	64～65		内閣官報局	明治元年3月	国立国会図書館デジタルコレクション
233	山県有朋の演説	史料	『官報』			内閣官報局	2287号付録 明治24年2月17日	帝国議会会議録検索システム
233	人間宣言	史料	『官報』			内閣印刷局	号外 昭和21年1月1日	国立国会図書館デジタルコレクション
234	輸出入の割合1865年	グラフ	『幕末貿易史の研究』	181～182	石井孝	日本評論社	1944	左記出典を元に著者作成
234	輸出入の割合1885年	グラフ	『日本貿易精覧』(増補復刻版)		東洋経済新報社編	東洋経済新報社	1935(復刻版1975)	左記出典を元に著者作成
234	輸出入の割合1899年	グラフ	『日本貿易精覧』(増補復刻版)		東洋経済新報社編	東洋経済新報社	1935(復刻版1975)	左記出典を元に著者作成
234	輸出入の割合1913年	グラフ	『日本貿易精覧』(増補復刻版)		東洋経済新報社編	東洋経済新報社	1935(復刻版1975)	左記出典を元に著者作成
235	輸出入の割合1935年	グラフ	『日本外国貿易年表』(昭和10年上篇)		大蔵省編	大蔵省	1936	左記出典を元に著者作成
235	輸出入の割合1955年	グラフ	『昭和31年度年次経済報告』			経済企画庁		データはインターネットより。左記出典を元に著者作成
235	輸出入の割合1975年	グラフ	『日本貿易年表』(1975年分)			財務省		データはインターネットより。左記出典を元に著者作成
235	輸出入の割合2015年	グラフ	『日本の統計2019』			総務省統計局		データはインターネットより。左記出典を元に著者作成
237	廃藩置県後の中央官制	図						著者作成
237	徴兵告諭	史料	『法令全書』	432～433		内閣官報局	明治5年11月	国立国会図書館デジタルコレクション
239	地券	写真						当社蔵
240	富岡製糸場の内部	写真						国立国会図書館蔵
241	太政官札	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
241	民部省札	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
241	20円金貨	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
241	貿易銀	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
241	新紙幣(明治通宝札)	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
242	学事奨励に関する太政官布告——被仰出書	史料	『法令全書』	146～147		内閣官報局	明治5年8月	国立国会図書館デジタルコレクション
243	大浦天主堂内部	写真						大浦天主堂キリシタン博物館提供
244	明治10年代の銀座の風景	写真						マスプロ美術館蔵
245	岩倉使節団	写真						山口県文書館蔵
246	明治時代初期の日本の領土と外交関係	地図						著者作成
246	民撰議院設立の建白	史料	『日新真事誌』				第206号 明治7年1月18日	
247	明治前期の農民騒擾の発生件数	グラフ	『明治農民騒擾の年次的研究』	36、64	青木虹二	新生社	1967	左記出典を元に著者作成
249	自由民権運動と立憲体制の成立	表						著者作成
250	自由黨員などの騒擾事件	地図						著者作成
251	言論の弾圧	写真						横浜開港資料館蔵
251	保安条例	史料	『官報』			内閣官報局	号外 明治20年12月25日	国立国会図書館デジタルコレクション
251	『国民之友』の第1号表紙	写真						日本近代文学館蔵
251	『日本人』の第1号表紙	写真						日本近代文学館蔵
252	大日本帝国憲法	史料	大日本帝国憲法御署名原本				明治22年2月11日	国立公文書館デジタルアーカイブ
253	大日本帝国憲法下の国家機構	図						著者作成
254	おもな法典の制定	表						著者作成
254	民法	史料	『官報』			内閣官報局	4491号 明治31年6月21日	国立国会図書館デジタルコレクション
255	帝国議会衆議院の図	写真						衆議院憲政記念館蔵
257	条約改正への歩み	表						著者作成
258	『時事新報』の「脱亜論」	史料	『時事新報』	社説			1885年3月16日	
259	日清戦争関係図	地図						著者作成
259	日清戦争の賠償金の使途	グラフ	『明治財政史』	290～291	明治財政史編纂会編	丸善	1904	左記出典を元に著者作成
261	東アジアにおける列強の勢力圏	地図						著者作成
262	義和団戦争で出兵した連合軍の兵士たち	写真						ユニフォトプレス提供
263	日露戦争関係図	地図						著者作成
264	日朝関係の推移	表						著者作成
264	東洋拓殖会社京城本店	写真						絵葉書資料館蔵
266	大逆事件の判決を報じる新聞記事	写真	『東京朝日新聞』					朝日新聞社提供
267	第三次桂内閣初閣議での桂の発言	史料	桂太郎関係文書	69/44				国立国会図書館憲政資料室蔵
267	帝国議会の前に集まる人々	写真						朝日新聞社提供
268	第一次世界大戦前のおもな同盟・協関係	図						著者作成
269	二十一条の要求	史料	『日本外交年表並主要文書』上巻	381～384	外務省編	原書房	1965	
270	中国に対する列強の投資比	グラフ	『近現代日本経済史要覧 補訂版』	102	三和良一・原朗編	東京大学出版会	2010	左記出典を元に著者作成
271	吉野作造の民本主義	史料	『中央公論』			中央公論社	1916年1月号	

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
271	第一次世界大戦開始後の物価と賃金の変化	グラフ	『日本経済統計総観』	940、1120～1129	朝日新聞社編	朝日新聞社	1930	左記出典を元に著者作成
272	選挙結果の動向	グラフ	『日本長期統計総覧』第5巻	351～352	総務庁統計局監修	日本統計協会	1988	左記出典を元に著者作成
273	ヴェルサイユ体制下の日本の領土	地図						著者作成
274	第一次世界大戦後のおもな国際会議・条約	表						著者作成
276	『青鞜』の同人たち	写真						日本近代文学館蔵
277	おもな選挙法の改正	表	『日本長期統計総覧』第1巻 『日本長期統計総覧』第5巻	48～49 349	総務庁統計局監修	日本統計協会	1987 1988	左記出典などを元に著者作成
277	「普選 みなさん投票所へ」	写真						法政大学大原社会問題研究所蔵
278	治安維持法 改正治安維持法	史料	『官報』 『官報』			内閣印刷局 内閣印刷局	第3797号 大正14年4月22日 号外 昭和3年6月29日	国立国会図書館デジタルコレクション
279	紙幣整理の動向	グラフ	『日本経済統計総観』 『日本の金融統計』	1108 28、29、32	朝日新聞社編 後藤新一	朝日新聞社 東洋経済新報社	1930 1970	左記出典を元に著者作成
280	松方財政前後の輸出入	グラフ	『日本経済統計総観』	238～239	朝日新聞社編	朝日新聞社	1930	左記出典を元に著者作成
280	最初の日本銀行兌換銀券	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
282	綿糸の生産と輸出入の変遷	グラフ	『日本紡績史』	489～491、503	飯島幡司	創元社	1949	左記出典を元に著者作成
282	大阪紡績会社	写真						東洋紡株式会社(コーポレートコミュニケーション部)蔵
283	鉄道の発展	グラフ	『日本経済統計総観』	805	朝日新聞社編	朝日新聞社	1930	左記出典を元に著者作成
283	主要な払下げ工場・鉱山	表	『近現代日本経済史要覧 補訂版』	61	三和良一・原朗編	東京大学出版会	2010	左記出典を元に著者作成
284	八幡製鉄所	写真						日本製鉄株式会社九州製鉄所蔵
284	1913年の日本の貿易相手	グラフ	『大日本外国貿易年表』(大正2年) 『台湾外国間及内地間貿易年表』(大正2年)		大蔵省編 台湾総督府		大正3年 大正3年	左記出典を元に著者作成
285	小作地率の変化	グラフ	『近現代日本経済史要覧 補訂版』	19	三和良一・原朗編	東京大学出版会	2010	左記出典を元に著者作成
285	田植えの風景	写真						横浜開港資料館蔵
286	塩尻峠をこえる工女	写真						神津忠彦提供
286	工場労働者数の内訳	グラフ	『日本産業革命の研究』	51	大石嘉一郎編	東京大学出版会	1975	左記出典を元に著者作成
286	東京の「貧民窟」	写真	『風俗画報』					国立国会図書館蔵
287	足尾銅山	写真						国立国会図書館蔵
288	労働争議・小作争議の推移	グラフ	『日本経済統計集』	296～299	日本統計研究所	日本評論社	1958	左記出典を元に著者作成
289	義務教育における就学率の向上	グラフ	『学制百年史』資料編		文部省	帝国地方行政学会	1981	文部科学省ウェブページより。左記出典を元に著者作成
292	「読書」	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
292	「湖畔」	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
292	「海の幸」	写真						石橋財団アーカイブズ美術館蔵
292	「老猿」	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
292	「女」	写真						東京国立近代美術館蔵、 photo:MOMAT/DNPartcom
293	旧東宮御所(迎賓館赤坂離宮)	写真						迎賓館提供
293	「悲母観音」	写真						東京藝術大学蔵、 画像提供:東京藝術大学/DNPartcom提供
294	山形市街図	写真						山形県郷土館「文翔館」蔵
295	第一次世界大戦前後の輸出入	グラフ	『日本経済統計総観』	238	朝日新聞社編	朝日新聞社	1930	左記出典を元に著者作成
296	モガが行く	写真						影山光洋撮影(影山智洋)
296	和文タイプライターを打つ女性	写真						毎日新聞社提供
296	阪神急行電鉄の本社事務所	写真						阪急電鉄株式会社(広報部)提供
297	新聞の発行部数	グラフ	『朝日新聞社史 資料編』 『毎日新聞販売史 戦前・大阪編』	320～321 604	朝日新聞社百年史編集委員会編 川上富蔵編	朝日新聞社 毎日新聞大阪開発	1995 1979	左記出典を元に著者作成
297	『キング』創刊号の表紙	写真						東京大学大学院法学政治学研究科附属近代 日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫蔵
299	『太陽のない街』の表紙	写真						日本近代文学館蔵
299	『白樺』創刊号の表紙	写真						日本近代文学館蔵
299	「金巻」	写真						東京国立近代美術館蔵、 photo:MOMAT/DNPartcom
299	「転生」	写真						東京芸術大学(大学美術館、平櫛弘子)蔵、 画像提供:東京藝術大学/DNPartcom提供
300	銀行におし寄せた預金者たち	写真						朝日新聞社提供
301	業種別払込資本金における財閥の占める度合い	グラフ	『三井・三菱の百年』	90～91	柴垣和夫	中央公論社	1968	左記出典を元に著者作成
302	北伐関係図	地図						著者作成
303	張作霖爆殺事件	写真						山形新聞社提供
304	主要農産物・工業製品価格の下落	グラフ	『近現代日本経済史要覧 補訂版』	115	三和良一・原朗編	東京大学出版会	2010	左記出典を元に著者作成
305	満洲事変関係図	地図						著者作成
306	五・一五事件直後の首相官邸の日本間玄関	写真						毎日新聞社提供

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
307	リットン調査団	写真						朝日新聞社提供
308	工業生産額の内訳	グラフ	『長期経済統計10 鉱工業』	142～143	篠原三代平	東洋経済新報社	1972	左記出典を元に著者作成
310	二・二六事件	写真						朝日新聞社提供
312	日中戦争関係図	地図	『太平洋戦争への道』第4巻 日中戦争 下		秦郁彦・臼井勝美・平井友義	朝日新聞社	1963	左記出典などを元に著者作成
313	軍事費の増大と国家予算の膨張	グラフ	『長期経済統計1 国民所得』 『長期経済統計7 財政支出』	170～171 186～189	大川一司ほか 江見康一ほか	東洋経済新報社 東洋経済新報社	1974 1966	左記出典を元に著者作成
313	国家総動員法	史料	『官報』			内閣印刷局	第3371号 昭和13年4月1日	国立国会図書館デジタルコレクション
314	生活物資の購入券や配給券(集合写真)	写真						戦争と平和の資料館 ピースあいち蔵
314	生活物資の購入券や配給券(家庭用小麦粉購入券)	写真						東京都江戸東京博物館蔵
315	『麦と兵隊』の表紙	写真						日本近代文学館蔵
316	第二次世界大戦中のヨーロッパ	地図						著者作成
319	太平洋戦争の勃発(炎上するアメリカ太平洋艦隊)	写真						朝日新聞社提供
319	太平洋戦争の勃発(新聞記事)	写真						読売新聞社提供
320	太平洋戦争関係図	地図						著者作成
322	学童の集団疎開	写真						毎日新聞社提供
323	ポツダム宣言	史料	『日本外交年表並主要文書』下巻	626～627	外務省編	原書房	1965	
324	広島の爆心地の惨状	写真	日本史写真集		石田尚豊	山川出版社	昭和58	
324	長崎の爆心地の惨状	写真	日本史写真集		石田尚豊	山川出版社	昭和58	
326	連合国による日本管理の命令系統	図						著者作成
328	農地改革表	グラフ	『農林省統計表』第21次 『農林省統計表』第27次 『農地改革顛末概要』	4、5、35 5 646、647	農地改革記録委員会	農政タイムズ社	1944 1950 1951	左記出典を元に著者作成
329	墨で塗りつぶされた教科書	写真						当社蔵
329	戦前・戦後の学制の比較	図						著者作成
330	日本国憲法	史料	日本国憲法御署名原本				昭和21年11月3日	国立公文書館デジタルアーカイブ
332	買出し列車	写真						朝日新聞社提供
332	戦後の通貨発行高と物価指数	グラフ	『昭和国勢総覧』下巻	108、222	東洋経済新報社編	東洋経済新報社	1980	左記出典を元に著者作成
335	松川事件	写真						朝日新聞社提供
336	サンフランシスコ平和条約の規定による日本の領土	地図						著者作成
337	サンフランシスコ平和条約	史料	『日本外交文書』	146～149	外務省編	外務省	2009	外務省外交史料館日本外交文書デジタルコレクション
338	人気を呼ぶプロ野球	写真						毎日新聞社提供
340	自衛隊発足記念式典での観閲行進	写真						共同通信社・ユニフォトプレス提供
340	砂川事件	写真						ユニフォトプレス提供
342	新安保条約反対のデモ	写真						朝日新聞提供
342	日米相互協力及び安全保障条約	史料	『昭和35年御署名原本第10巻』	条約第6号				国立公文書館デジタルアーカイブ
343	日韓基本条約	史料	『昭和40年御署名原本第16巻』	条約第25号				国立公文書館デジタルアーカイブ
343	沖縄のアメリカ軍嘉手納基地	写真						ユニフォトプレス提供
343	沖縄のアメリカ軍専用施設分布図	地図	『沖縄の米軍基地』			沖縄県	2018	左記出典を元に著者作成
345	朝鮮特需の概要 特需契約高	表	『資料戦後二十年史』第2巻	160	有沢広巳・稲葉秀三編	日本評論社	1966	
345	朝鮮特需の概要 おもな物資およびサービスの契約高	表	『資料戦後二十年史』第2巻	160	有沢広巳・稲葉秀三編	日本評論社	1966	
345	朝鮮特需の概要 主要物資の年別契約順位	表	『資料戦後二十年史』第2巻	160	有沢広巳・稲葉秀三編	日本評論社	1966	
345	主要経済指標が戦前水準をこえた年度	表	『近現代日本経済史要覧 補訂版』	150	三和良一・原朗編	東京大学出版会	2010	左記出典を元に著者作成
346	戦後の経済成長率(実質)の推移	グラフ	『日本長期統計総覧』第3巻 「国民経済計算」	363、374～375	総務庁統計局監修 内閣府	日本統計協会	1988	「国民経済計算」は内閣府ウェブページより。 左記出典を元に著者作成
346	工業の産業別構成(出荷額)の推移	グラフ	『日本国勢図絵』1990年版 『日本国勢図絵』1999/2000年版	230 193	矢野恒太記念会編 矢野恒太記念会編	国勢社 国勢社	1990 1999	左記出典を元に著者作成
347	1次エネルギー供給構成と自給率の推移	グラフ	「平成30年度エネルギーに関する年次報告 (エネルギー白書2019)」		経済産業省資源エネルギー庁			経済産業省資源エネルギー庁ウェブページより。 左記出典を元に著者作成
347	食料自給率の推移	表	『平成30年度 食料需給表』 『食料需要に関する基礎統計』	296～299 第24表	農林水産省 農林大臣官房調査課編		2020年3月公開 1976	e-Stat(政府統計の総合窓口)および Japanfoodstat.comより
348	小型自動車の組立て工場	写真						トヨタ自動車株式会社提供
348	広がるコンビナート地帯	写真						朝日新聞社提供
349	家庭生活の中心となったテレビ	写真						毎日新聞社提供
349	マイカー	写真						ユニフォトプレス提供
349	耐久消費財普及率の推移	グラフ	「消費動向調査」		内閣府			左記出典を元に著者作成
350	輸送機関別国内旅客輸送分担率の推移	グラフ	『日本の鉄道』 『交通経済統計要覧』平成30年版	281 30～31	老川慶喜ほか編 国土交通省総合政策局情報政策課監修	日本経済評論社 運輸総合研究所	1986 2020	左記出典を元に著者作成
351	東京オリンピック	写真						アマナ提供
351	大阪万博	写真						朝日新聞社提供
352	水俣病患者の少女	写真						塩田弘美提供

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
353	円・ドル為替相場の推移	グラフ	『近現代日本経済史要覧 補訂版』	159	三和良一・原朗編	東京大学出版会	2010	左記出典を元に著者作成
354	原油価格の推移	グラフ	BP Statistical Review of World Energy June 2019	Oil - Crude prices since 1861				BPウェブページより。左記出典を元に著者作成
355	日中共同声明	史料	『わが外交の近況』昭和48年版(17号)外交青書	第3部 I資料 3-(11)	外務省編	外務省	1973	外務省ウェブページ
355	石油危機の際の国民による買占め騒動	写真						アマナ提供
356	自動車工場の溶接ロボット	写真						トヨタ自動車株式会社提供
356	日本と主要先進国の経済成長率	グラフ	『近現代日本経済史要覧 補訂版』	41	三和良一・原朗編	東京大学出版会	2010	左記出典を元に著者作成
357	ジャパン=パッシング	写真						アフロ提供
358	主要通貨対米ドル変動率の推移	グラフ	『近現代日本経済史要覧 補訂版』	184	三和良一・原朗編	東京大学出版会	2010	左記出典を元に著者作成
359	市街地価格指数と日経平均株価の動向	グラフ	『近現代日本経済史要覧 補訂版』	185	三和良一・原朗編	東京大学出版会	2010	左記出典を元に著者作成
360	カンボジアでのPKO	写真						PKO事務局提供
363	阪神・淡路大震災で横倒しとなった高架道路	写真						朝日新聞社提供
365	富士山宝永噴火絵図	写真						静岡県立中央図書館歴史文化情報センター提供
365	資料1: 諸国高役金令	史料	『御触書寛保集成』					
366	資料2: 岐阜県と愛知県の被害と救済	表	『日本災害史』	290	北原糸子	吉川弘文館	2006	左記出典を元に著者作成
366	資料3: 防災ボランティアに関する近年の動向	表	『令和2年版防災白書』	58	内閣府		2020	
366	資料4: ボランティア活動における課題の例	表	「防災ボランティア活動に関する論点集」	2～3	内閣府		2012年3月22日版	左記出典より抜粋
367	資料5: 各国のODA実績の推移	グラフ	World Development Indicators	Net ODA provided, total (current US\$)				世界銀行ウェブページより 左記出典を元に著者作成
367	国際緊急援助隊救助チーム	写真						時事通信フォト提供
368	資料6: 日本赤十字社からのERUの派遣	表						著者作成
368	資料7: 「国境なき医師団日本」の2020年度財務報告	グラフ	『活動報告書 2020年度版』	1月10日	国境なき医師団日本		2021年	左記出典を元に著者作成
369	火災で正殿、北殿、南殿が全焼した首里城	写真						朝日新聞社提供
369	第67回(令和2年度)文化財防火デーポスター	写真						文化庁提供
369	資料8: 「首里城復興の基本的な考え方」	史料	「首里城復興の基本的な考え方」		沖縄県		2019年12月26日	
370	資料9: 文化財保護に関する法律の変遷	表						著者作成
370	資料10: 文化財保護法の改正	表						著者作成
370	資料11: 「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」のメンバーの声	史料	『ふくしま再生と歴史・文化遺産』	208	阿部浩一・福島大学うつくしまふくしま未来支援センター編	山川出版社	2013年	

(備考) 1 「申請図書」の欄については次のとおりとする。

- ① 「ページ」の欄には、引用又は新たに作成した教材や資料等の申請図書における掲載ページを示す。
- ② 「名称」の欄には、引用した教材や資料等の申請図書における名称を示す。
- ③ 「種別」の欄には、国語教材、楽譜、写真、図、挿絵、表、グラフ、地図などの別を示す。

2 「出典」の欄については次のとおりとする。

- ① 出典が一般図書の場合は、当該図書の名称（版次を含む。）、掲載ページ、著作者・編集者等、発行者及び発行年次を各欄に示す。
- ② 出典が定期刊行物の場合は、発行年次等欄に巻号、発行月日等を示す。
- ③ 出典が図書でない場合には、備考欄に資料提供者や保有者の氏名又は名称、及び当該資料に付された整理番号等を示すなど、出典を確認することが可能な情報を記入する。

3 出典を基に申請図書の発行者が改変を行った場合又は新たに作成を行った場合は、「備考」欄にその旨を示す。

4 (1) 写真等については、肖像権等の権利処理を必要に応じて行うこと。

(2) 著作物の掲載に当たっては、著作権法第33条に基づき、掲載する旨を著作者に通知するとともに、補償金を著作権者に支払う必要があることに留意すること（別途契約を締結する場合を除く）。

備考4の内容について確認しました。

ウェブサイトのアドレスの掲載箇所一覧表

申請図書			学習上の参考にする情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
1	4	URL 2次元コード	自社ページ	自社ページURL	教科書ポータルサイトへのリンク (各コンテンツへリンクさせるためのメニューページ)	別紙1
2	10	2次元コード	自社ページ NHK for School	自社ページURL https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005403008_00000	貝塚を紹介する動画	別紙2
3	79	2次元コード	自社ページ NHK for School	自社ページURL https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005403021_00000	荘園図を紹介する動画	別紙3
4	87	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	『一遍上人絵伝』(巻7)の全体図	別紙4
5	89	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	『洛中洛外図屏風』右隻の全体図	別紙5
6	91	2次元コード	自社ページ NHK for School	自社ページURL https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005403026_00000	鎌倉街道と切通を紹介する動画	別紙6
7	98	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	「伯耆国東郷荘の下地中分図(模写)」の全体図	別紙7
8	139	2次元コード	自社ページ NHK for School	自社ページURL https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005403060_00000	鉄砲伝来を紹介する動画	別紙8
9	149	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	『南蛮屏風』左隻・右隻の全体図	別紙9
10	155	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	武家諸法度(元和令)の全文	別紙10-1 別紙10-2

11	157	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	武家諸法度(寛永令)の全文	別紙11-1 別紙11-2
12	177	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	武家諸法度(天和令)の全文	別紙12-1 別紙12-2
13	240	2次元コード	自社ページ NHK for School	自社ページURL https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005310125_00000	富岡製糸場を紹介する動画	別紙13
14	252	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	大日本帝国憲法の全文	別紙14-1 別紙14-2
15	269	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	二十一カ条の要求の全文	別紙15-1 別紙15-2
16	271	2次元コード	自社ページ NHK for School	自社ページURL https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005403083_00000	米騒動を紹介する動画	別紙16
17	276	2次元コード	自社ページ NHK for School	自社ページURL https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005403088_00000	関東大震災を紹介する動画	別紙17
18	284	2次元コード	自社ページ NHK for School	自社ページURL https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005403080_00000	八幡製鉄所を紹介する動画	別紙18
19	314	2次元コード	自社ページ NHK for School	自社ページURL https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005403091_00000	戦時下の生活を紹介する動画	別紙19
20	330	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	日本国憲法の全文	別紙20-1 別紙20-2
21	337	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	サンフランシスコ平和条約の全文	別紙21-1 別紙21-2
22	342	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	日米相互協力及び安全保障条約の全文	別紙22-1 別紙22-2

23	342	2次元コード	自社ページ NHK for School	自社ページURL https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005403099_00000	安保闘争を紹介する動画	別紙23
24	354	2次元コード	自社ページ NHK for School	自社ページURL https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005403102_00000	石油危機を紹介する動画	別紙24



別紙 1-1

別紙 1-3

別紙 1-2

別紙 1-4

	史料の現代語訳	重要年代チェック	歴史資料
現代語訳を確認 史料の現代語訳			
			
第1部 原始・古代			
p.18 『漢書』地理志			
p.18 『後漢書』東夷伝			
p.19 「魏志」倭人伝			
p.27 倭王武の上表文			
p.33 憲法十七条			
p.34 遣隋使の派遣			
p.37 改新の詔			
p.46 国分寺建立の詔			

別紙 1-1-1 (教科書ポータルサイトの「史料の現代語訳」一覧)

ページ	学 習 上 の 参 考 に 供 す る 情 報			備 考
	参照先	URL	概要	
18	自社ページ	自社ページ URL	『漢書』地理志の現代語訳	別紙 1-1-2
18	自社ページ	自社ページ URL	『後漢書』東夷伝の現代語訳	別紙 1-1-3
19	自社ページ	自社ページ URL	「魏志」倭人伝の現代語訳	別紙 1-1-4
27	自社ページ	自社ページ URL	倭王武の上表文の現代語訳	別紙 1-1-5
33	自社ページ	自社ページ URL	憲法十七条の現代語訳	別紙 1-1-6
34	自社ページ	自社ページ URL	遣隋使の派遣の現代語訳	別紙 1-1-7
37	自社ページ	自社ページ URL	改新の詔の現代語訳	別紙 1-1-8
46	自社ページ	自社ページ URL	国分寺建立の詔の現代語訳	別紙 1-1-9
46	自社ページ	自社ページ URL	大仏造立の詔の現代語訳	別紙 1-1-10
48	自社ページ	自社ページ URL	三世一身法の現代語訳	別紙 1-1-11
48	自社ページ	自社ページ URL	墾田永年私財法の現代語訳	別紙 1-1-12

別紙 1-1-1 (教科書ポータルサイトの「史料の現代語訳」一覧)

ページ	学 習 上 の 参 考 に 供 す る 情 報			備 考
	参照先	URL	概要	
51	自社ページ	自社ページ URL	『万葉集』——貧窮問答歌の現代語訳	別紙 1-1-13
64	自社ページ	自社ページ URL	藤原氏の栄華の現代語訳	別紙 1-1-14
66	自社ページ	自社ページ URL	『往生要集』の序文の現代語訳	別紙 1-1-15
71	自社ページ	自社ページ URL	国司の暴政——尾張国郡司百姓等解の現代語訳	別紙 1-1-16
76	自社ページ	自社ページ URL	記録荘園券契所の設置の現代語訳	別紙 1-1-17
77	自社ページ	自社ページ URL	院政の開始の現代語訳	別紙 1-1-18
82	自社ページ	自社ページ URL	平氏の繁栄の現代語訳	別紙 1-1-19
96	自社ページ	自社ページ URL	御成敗式目の現代語訳	別紙 1-1-20
96	自社ページ	自社ページ URL	式目制定の趣旨——北条泰時書状の現代語訳	別紙 1-1-21
103	自社ページ	自社ページ URL	紀伊国阿氏河荘民の訴状の現代語訳	別紙 1-1-22
103	自社ページ	自社ページ URL	永仁の徳政令の現代語訳	別紙 1-1-23

別紙 1-1-1 (教科書ポータルサイトの「史料の現代語訳」一覧)

ページ	学 習 上 の 参 考 に 供 す る 情 報			備 考
	参照先	URL	概要	
105	自社ページ	自社ページ URL	悪人正機—『歎異抄』の現代語訳	別紙 1-1-24
111	自社ページ	自社ページ URL	二条河原落書の現代語訳	別紙 1-1-25
113	自社ページ	自社ページ URL	一三五二年の半済令の現代語訳	別紙 1-1-26
119	自社ページ	自社ページ URL	惣掟の現代語訳	別紙 1-1-27
120	自社ページ	自社ページ URL	正長の徳政一揆の現代語訳	別紙 1-1-28
122	自社ページ	自社ページ URL	山城の国一揆の現代語訳	別紙 1-1-29
122	自社ページ	自社ページ URL	加賀の一向一揆の現代語訳	別紙 1-1-30
134	自社ページ	自社ページ URL	分国法の現代語訳	別紙 1-1-31
135	自社ページ	自社ページ URL	自由都市堺について——ガスパル=ヴィレラ書簡の現代語訳	別紙 1-1-32
141	自社ページ	自社ページ URL	楽市令の現代語訳	別紙 1-1-33
144	自社ページ	自社ページ URL	刀狩令の現代語訳	別紙 1-1-34

別紙 1-1-1 (教科書ポータルサイトの「史料の現代語訳」一覧)

ページ	学 習 上 の 参 考 に 供 す る 情 報			備 考
	参照先	URL	概要	
144	自社ページ	自社ページ URL	奥州平定と太閤検地の現代語訳	別紙 1-1-35
145	自社ページ	自社ページ URL	バテレン追放令の現代語訳	別紙 1-1-36
155	自社ページ	自社ページ URL	武家諸法度（元和令）の現代語訳	別紙 1-1-37
157	自社ページ	自社ページ URL	武家諸法度（寛永令）の現代語訳	別紙 1-1-38
158	自社ページ	自社ページ URL	禁中並公家諸法度の現代語訳	別紙 1-1-39
161	自社ページ	自社ページ URL	寛永十二年禁令の現代語訳	別紙 1-1-40
161	自社ページ	自社ページ URL	寛永十六年禁令の現代語訳	別紙 1-1-41
170	自社ページ	自社ページ URL	村々への法令の現代語訳	別紙 1-1-42
170	自社ページ	自社ページ URL	田畑永代売買を禁ずる法令の現代語訳	別紙 1-1-43
177	自社ページ	自社ページ URL	武家諸法度（天和令）の現代語訳	別紙 1-1-44
192	自社ページ	自社ページ URL	上げ米の令の現代語訳	別紙 1-1-45

別紙 1-1-1 (教科書ポータルサイトの「史料の現代語訳」一覧)

ページ	学 習 上 の 参 考 に 供 す る 情 報			備 考
	参照先	URL	概要	
200	自社ページ	自社ページ URL	身分社会への批判の現代語訳	別紙 1-1-46
205	自社ページ	自社ページ URL	海防論の現代語訳	別紙 1-1-47
207	自社ページ	自社ページ URL	異国船打払令の現代語訳	別紙 1-1-48
210	自社ページ	自社ページ URL	人返しの法の現代語訳	別紙 1-1-49
210	自社ページ	自社ページ URL	株仲間の解散の現代語訳	別紙 1-1-50
214	自社ページ	自社ページ URL	貿易論の現代語訳	別紙 1-1-51
221	自社ページ	自社ページ URL	オランダ国王の開国勧告の現代語訳	別紙 1-1-52
223	自社ページ	自社ページ URL	日米修好通商条約の現代語訳	別紙 1-1-53
228	自社ページ	自社ページ URL	王政復古の头号令の現代語訳	別紙 1-1-54
229	自社ページ	自社ページ URL	五榜の掲示の現代語訳	別紙 1-1-55
232	自社ページ	自社ページ URL	五箇条の誓文の現代語訳	別紙 1-1-56

別紙 1-1-1 (教科書ポータルサイトの「史料の現代語訳」一覧)

ページ	学 習 上 の 参 考 に 供 す る 情 報			備 考
	参照先	URL	概要	
237	自社ページ	自社ページ URL	徴兵告諭の現代語訳	別紙 1-1-57
242	自社ページ	自社ページ URL	学事奨励に関する太政官布告——被仰出書の現代語訳	別紙 1-1-58
246	自社ページ	自社ページ URL	民撰議院設立の建白の現代語訳	別紙 1-1-59
251	自社ページ	自社ページ URL	保安条例の現代語訳	別紙 1-1-60
252	自社ページ	自社ページ URL	大日本帝国憲法の現代語訳	別紙 1-1-61
254	自社ページ	自社ページ URL	民法の現代語訳	別紙 1-1-62
258	自社ページ	自社ページ URL	『時事新報』の「脱亜論」の現代語訳	別紙 1-1-63
267	自社ページ	自社ページ URL	第三次桂内閣初閣議での桂の発言の現代語訳	別紙 1-1-64
269	自社ページ	自社ページ URL	二十一カ条の要求の現代語訳	別紙 1-1-65
271	自社ページ	自社ページ URL	吉野作造の民本主義の現代語訳	別紙 1-1-66
278	自社ページ	自社ページ URL	治安維持法の現代語訳	別紙 1-1-67
313	自社ページ	自社ページ URL	国家総動員法の現代語訳	別紙 1-1-68

別紙 1-1-1 (教科書ポータルサイトの「史料の現代語訳」一覧)

ページ	学 習 上 の 参 考 に 供 す る 情 報			備 考
	参照先	URL	概要	
323	自社ページ	自社ページ URL	ポツダム宣言の現代語訳	別紙 1-1-69

『漢書』地理志

楽浪郡らくろうから海をへだてたところに倭人わじんが住んでおり、百
余りの小国にわかれている。定期的におとずれ、貢ぎ物みつものを
献上するという。

『後漢書』東夷伝

建武中元二(五七)年、倭の奴国なこくが朝貢ちやうこうのためにおとずれた。使者は自分自身を大夫たいふと名乗った。奴国は倭のもつとも南にある国である。光武帝こうぶていは、奴国の王に印と(印を身につけるための)ひもを授与した。安帝あんていの永初元(一〇七)年、倭の国王帥すいしやう升等が、奴隸どれい一六〇人を献上し、お目にかかりたいと願った。桓帝かんでいと靈帝れいていの時代(一四七〜一八九年)には、倭の国内に大乱がおこり、長い間戦いが続き、おさめる者がいなかった。

「魏志」倭人伝

〔位置〕 倭人は帯方郡たいほうの東南方向の海の中にある山の多い島に住み、国や邑むらを形成している。もとは百余りの国にわかれ、漢の時に朝貢せうこうしていた。現在、使者を派遣しているところは三〇カ国である。帯方郡より倭人の地に行くには、海岸に沿って航海し……（航海を続けたり、陸上を行ったりして）……邪馬台国やまたいこくにたどりつく。女王が都みやこにしている国である。

〔習俗〕 邪馬台国では、男は大人から子どもまで顔や体に

入れ墨をしている。

「統治組織・社会」 租税を徴収し、それをおさめる倉庫がある。国々に市があつてそこで交易をおこない、大倭^{だいわ}にこれを監督させている。女王国から北には、とくに一大率^{いちだいつそつ}をおき、諸国を監督させている。諸国はこれをおそればかっている。……下戸^{げこ}が大人^{たいじん}と道路であうと、しりごみしながら草むらへ入り、話をする場合は、うずくまったり^{ひざまず}跪いたりし、両手を地につけ、恭敬^{きやうけい}の態度を示す。……

「卑弥呼」 その国(倭のこと)では、以前は男王を立てて七、

八〇年を経過したが、国内が乱れ何年間も戦争が続いたので、諸国が共同で一人の女子を王として立てた。この女王の名を卑弥呼ひみこといい、呪術じゆじゆつをおこない、多くの人に自分の占いを信じさせている。すでに成人しているが、夫はなく、弟が政治を補佐している。……

〔対魏交渉〕 景初三（二三九）年六月、倭の女王が大夫の難な升米しめらを帯方郡につかわし、（魏の）天子にお目にかかつて朝貢することを求めた。……その年の十二月、（魏の皇帝は）詔書しやうしょを下して倭の女王に、「……今あなたを親魏倭王しんぎわおう

とし、紫のひもをつけた金印をさづけ、封をして帯方郡の長官に託して授与する。……」と告げた。

〔卑弥呼後〕 卑弥呼が死ぬと、大きい墓をつくった。その直径は百余歩で、卑弥呼に殉死した奴隷は百余人であった。その後、男子の王が即位したが国を支配できず、たがいに殺し合う内乱で千余人が殺された。卑弥呼の一族の女で一三歳の壺与が女王になると国中がやつとおさまった。

倭王武の上表文

興こうが死んで弟の武ぶが王位につき、自ら使持節都督倭・
百濟くだら・新羅しらぎ・任那みまな・加羅から・秦韓しんかん・慕韓ぼかん七国諸軍事安東大将
軍倭国王と称した。

順帝じゆんていの昇明二(四七八)年、武は使者を派遣して、(順帝
に)文書を奉り、つぎのように述べた。「私の国は中国から
はるか遠いところを領域としています。昔から私の祖先は、
みずから甲冑かちゆうを着け、山をこえ川を渡って各地で戦い、休
む暇もありませんでした。そして東は毛人もうじんの五五国、西は

衆夷しゅういの六六国を征服し、さらに海をこえて北方の九五国を
平定しました。……」。 (順帝は) 詔みことりを下して、武を使持
節都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事安東
大將軍倭王に任命した。

(『宋書』倭国伝)

憲法十七條

一にいう。和を大切にし、反抗したりすることのないのを基本と心がけよ。

二にいう。あつく仏教をうやまえ。

三にいう。天皇の詔みことのもりをうけたならば必ず従え。君とは天、臣とは地のようなものだ。

十二にいう。国くにのみこともち司くにのみやつこや国造は人民から不当に税をとらないようにせよ。国に二人の君主はなく、民に二人の主人はない。この国土のすべての民は天皇をもって主人と

しているのである。

十七にいう。ものごとを独断でおこなってはならない。必ず皆と議論するようにせよ。

(『日本書紀』)

遣隋使の派遣

開皇二十(六〇〇)年、倭王の、姓を阿毎、字を多利思比孤という者が、阿輩雞彌と名乗り、皇帝のもとに使者を遣わしてきた。隋の文帝は所管する官庁に倭の風俗について尋ねさせた。

(『隋書』倭国伝)

推古天皇の十五年(六〇七)秋の七月三日、大礼の小野妹子を中国の隋に派遣した。鞍作福利が通訳となった。

(『日本書紀』)

大業三(六〇七)年、倭王の多利思比孤が使者を派遣して朝貢してきた。使者はこう述べた。「海西の菩薩天子が前代に栄えた仏法をさらにさかんにしていると耳にしました。そこで私を派遣して天子に対する礼をつくし、同時に僧侶も数十人、仏法を学ばせるために同行させました」。その国書には「太陽ののぼるところの国の天子が、太陽の沈むところの国の天子に手紙を差し上げます。お変わりありませんか」と書かれていた。帝(煬帝)はこの国書を見て不機嫌になり、鴻臚卿に「蛮夷の国からの書に無礼なものがあ

つたならば、二度と奏上そうじょうするな」と命じた。

(『隋書』倭国伝)

改新の詔

第一条にいう。「昔の天皇たちが設けた子代こしろや各地の屯倉みやけ、
および臣おみ・連むらじ・伴とものみやつこ・造くにのみやつこ・国造むらのおびと・村首むらのおびとら諸豪族が支
配する部曲かきべや各地の田荘たどころを廃止せよ。これに伴い、
大夫まへつきみ以上には、それぞれの地位に応じて食封じきふ(封戸ふこ)を与
えることにする。」

第二条にいう。「はじめて都をつくり、畿内きな・国司くにのみやつこ・郡司ぐんのみやつこ
および関塞せきそこ・斥候うかみ・防人さきもり・駅馬はゆま・伝馬つたわりうまを設置し、駅鈴えきれい
や木契もつけいをつくり、国や郡の境となる山河を定めよ。」

第三条にいう。「はじめて戸籍・計帳・班田收授の法をつくれ。」

第四条にいう。「これまでの税制を廃止して、一定基準で田地への税制を施行せよ。……それとは別に戸ごとに税を徴収せよ。」

(『日本書紀』)

国分寺建立の詔

(天平十三(七四一)年)三月……二十四日、(聖武天皇は)詔みことりの中でつぎのように述べられた。「……諸国に命じてそれぞれの国に七重塔一基を建立し、金光明最勝王經きんこうみょうさいしょうおうきょう・妙法蓮華經みょうほうれんげきょう各一部を写させよ。……僧寺には必ず僧二〇人をおき、金光明四天王護国してんのうごこくの寺と名づけ、尼寺には尼僧一〇人をおき、法華滅罪ほっけめつざいの寺と名づけ、両寺ともに仏の教えと戒律を伝えよ……」と。

(『続日本紀』)

大仏造立の詔

(天平十五(七四三)年)冬十月十五日、(聖武天皇は)
詔みことりの中でつぎのように述べられた。「……天平十五年十月十五日をもって、人々を救済しようという仏弟子としての願いをおこして、盧舎那仏るしゃなぶつの金銅像一体をつくることにした。……天下の富をもつ者は私であり、天下の勢いをもつ者も私である。この富と勢いをもって仏の尊像をつくる。(この富と勢いをもつてすれば)事は成り易いが、発願ほつがんの趣旨に叶かなうことは難しい。……」と。(『続日本紀』)

三世一身法

(養老七(七二三年)四月)辛亥(十七日)、太政官だいじょうかんはつぎのように天皇に奏上そうじょうした。「最近、人口がしだいに増加したのに対し、田や池は少なく不足しています。そこで、全国の人民に田地の開墾をすすめおこなわせたいと思います。その場合、あらたに溝や池をつくって開墾した者があれば、開墾地の多少にかかわらず三代にわたって所有を許し、すでにある溝や池を利用して開墾した時には本人一代のみに所有を許すことにしましょう」と。
(『続日本紀』)

墾田永年私財法

(天平十五(七四三)年五月)乙丑(二十七日)、天皇はつぎのような詔みことりを下した。「聞くところによると、墾田は養老七(七二二)年の格きやくによって、期限が過ぎたら一般の公地と同様に収公してきたが、このため農民が意欲を失い、せつかく開墾した土地が再び荒廃してしまうという。今後は、開墾者が自由に私有地とすることを認め、三世一身という期限にかわりなく、すべて永久に回収してはならない。ただし私有地の限度は、親王しんのうの一品いっぽんと諸王臣の一位の

位階をもつ者は五百町、……初位以下と庶民は十町とする。
ただし郡司ぐんじについては、大領だいらょう・少領しょうりょうは三十町、主政しゅせい・主
帳ちやうは十町を限度とする。……」と。

(『続日本紀』)

『万葉集』——貧窮問答歌

人並みに働いているのに、綿（真綿）も入っていない麻の袖なしの、しかも海松みるのように破れて垂れ下がり、ぼろぼろになったものばかりを肩にかけて、低くつぶれかけた家、曲って傾いた家の中には、地べたにじかに藁わらを解き敷いて、父母は枕の方に、妻子は足の方に、自分を囲むようにして、悲しんだりうめいたりしており、かまどには火の気もなく、甑こしきには蜘蛛くもの巣が張って、飯を炊くことも忘れたふうで、かぼそい力のない声でせがんでいるのに、短いものの端はしを

切るといふことわざと同じように、むち笞を持った里長の呼ぶ
声が寝ているところにまで聞こえてくる。

藤原氏の栄華

(寛仁二一〇一八)年十月十六日乙巳、今日は女御にようごの藤原威子いしを皇后こうごうに立てる日である。……太閤たいこう(道長みちなが)が私をまねいて「和歌を詠よもうと思うが、君も必ず返歌を詠め」というので、「きつと返歌をお詠みいたしましょう」と答えた。するとまた、「今日のことを」誇らしく思っつてつくった歌だが、あらかじめつくっておいたものではない。」
といて、「この世の中はまるで自分の世のようだ。満月が欠けるところのないように(自分の望みでかなわぬものが

ない」と歌った。私は「この御歌は優美で、これに見合う返歌を詠むなどということはとてもできません。みなそろってこの御歌を唱和するのがよろしいでしょう。……」と申し上げた。

(『小右記』)

『往生要集』の序文

極楽ごくらくに往生おうじやうするための教えと修行は、にごった末法まつぽうの世の中の道標みちすゑとなるものである。出家しゅっけした人も俗人も、身分が高い人も低い人も、皆この教えには帰依きえするであろう。これまでの仏教は、経文が一つではなく、成仏するための修行もまた多い。知恵があり仏道に励むことができる人ならば困難ではないだろうが、私のような愚かな者には到底できないことである。こうした理由で、念仏の教えに限って、経論きやうろんの中の重要な部分を集めてみた。この書を開いて

学べば、教えもわかりやすく、修行もおこないやすいであ
ろう。

国司の暴政——尾張国郡司百姓等解

尾張国おわりのくにの郡司ぐんじと百姓たじようかんが太政官の裁決を申請すること

当国の守かみである藤原元命もとなががこの三カ年の間におこなった
非法な徴税と不法行為に関する三カ条(の訴え状)につ
いて裁決をお願いします。

一 1 ……決まった額すいごの出挙しようぜいのほかに、三年間に正税しょうぜい四三
万一二四八束の利息として一二万九三七四束そく四把わ一分を
徴収したことに付いて裁断して下さい。……

一 30 ……国守元命が、京からこの国へ下ってくるたびに、

有官(官位のある者)や散位(位階のみもつ者)の従者や、
よからぬ者たちを引きつれてくることについて裁断して
下さい。……

永延二(九八八)年十一月八日

郡司百姓等

記録荘園券契所の設置

この後三条天皇の時に、……延久の記録所というものはじめて設けられたのは、全国にある私領（荘園）が、せんじ宣旨やかんぶ官符で認められたわけでもないのに公領をかすめ取っており、それが大変な害悪だとずっとお聞きになってきたからだ。とくにうじ宇治殿（藤原頼通）の時に、「てりやう摂関家の御領だ、すりやう受領の任務が果たせないなどという不満の声を、御耳にとめておいでになったからだろう。」

（『愚管抄』）

院政の開始

白河上皇は、……後三条天皇が亡くなってから、天下の政治をおこなうことが五七年間に及んだ(天皇在位が一四年、上皇としては四三年である)。自分の思う通りに、法令にこだわることなく、役人や国司の任命、位を与えることをおこなった。このようなことは今まで例がなかった。……その権威は全国に及び、天下の人々はその下に服従した。幼少であった堀河・鳥羽・崇徳天皇の三代にわたって政治をおこない、伊勢神宮に齋宮さいぐうとして奉仕した六人の内親王ないしんのうの

親でもあったことは、絶えて桓武天皇以来、例がなかった。徳が高く知が優れた長寿の君主というべきである。ただし、裁判もしっかりおこない、賞と罰とをはっきりとおこない、かわいがる者と憎む者の区別がはっきりしていて、貧しくなる者と富んでいく者をはっきり分かれた。男女の近臣を優遇することが多いため、世の中の秩序が破れてしまった。

（『中右記』）

平氏の繁栄

六波羅殿ろくはらのの一家のご子息たちといえば、たとえ花族かしよくや英雄ゆうゆうなどの（摂関家につぐ）名門の貴族でさえ、肩を並べる人がいない。だから入道相国にゆうじょうしやうこく（清盛きよもり）の妻の弟の大納言時忠だいなごんときただ卿きやうは「平家一門でない者は人ではない」と高言された。このような状況であったので、どのような人でも平氏の縁故えんこに結び付こうとしたのである。……

日本全国はわずかに六六カ国であるが、平家の知行国ちぎやうは三十余カ国で全国の半数をこえている。そのほかに（平家所

有の(莊園や田畠はどれほどあるかわからない。美しい衣服
で着飾った人が満ちあふれた平家の邸宅は花が咲いたよう
である。牛車や騎馬の人々が平氏の門前に集まり、市のよ
うににぎわっている。揚州ようしゅうで産出する黄金おうごん、荊州けいしゅうで取れ
る宝石ごしん、呉郡ごきんの綾織りの絹布きんぷ、蜀江しよくかうの錦の布など、さまざま
まなめずらしいものや宝物など、持っていないものはない
ほどである。

(『平家物語』)

御成敗式目

一 3 諸国守護人の職務・権限のこと

このことについて、右大將家うだいしやうけ（源頼朝よりとち）の時代に定められたのは、大番役おおばんの催促、謀叛人むほん・殺害人せつがい（夜討ち・強盜ごうとう・山賊・海賊を付け加える）の逮捕の事柄である。

一 5 諸国の地頭が年貢ねんぐをおさえとどめていること

このように年貢をおさえとどめ、本所へ年貢を送ってこないという本所（莊園領主）側からの訴えがあれば、ただちに決算をして、莊園領主の監査を受けなければならぬ

い。

一 8 御下文くだしづみをもっているにもかかわらず、実際の土地支配をおこなわないまま相当期間の年数を経た所領のこと
これについては、現実に支配した後、二〇年を過ぎた場合には、大将家（源頼朝）時代の慣例により、権利の正当性のいかんにかかわらず、現在土地を支配している者をやめさせることはしない。

一 23 女性が養子を迎えること

これについては、律令の趣旨からすれば許されないが、

大将家(源頼朝)の時代から今日に至るまで、子のいない女性が所領を養子に譲与することは、武家社会の変わらぬ慣習として数えきれないほどある。

式目制定の趣旨——北条泰時書状

さて、この式目をつくったことについては、なにを根拠として書かれたのかと、朝廷の人々はきつと非難するでしょう。たしかにこれといった典拠はないのですが、ただ道理でおしはかるところを書いたのです。……この式目は仮名だけを知っている人が世間には多いので、……武士の便宜のためにつくったというほどのものです。これによって京都の朝廷での取決めや律令の規定が少しでも改まるようなことがあつてはなりません。

(御成敗式目唯浄裏書)

紀伊国阿氏河荘民の訴状

阿氏河荘あてがわのしょうかみむら上村の百姓らが謹んで申し上げます。

一 (納入が遅れている)御材木のございですが、地頭が上京するのだとか、近所での人夫役にんぶとかと申して、このように荘民を人夫として、地頭の方で責め使われますので、私たちには労力と時間がないのでございます。それに使われずにわずかに残った人夫を、山から材木を運び出すために出発させたのですが、(地頭が)逃亡農民の耕地に麦をまけといて追い返してしまいました。

「お前たちがこの麦をまかなければ、妻子どもを家に閉じ込め、耳を切り鼻をそぎ、髪を切って尻にして、縄でしばって苦しめるぞ」と、厳しく責め立てますので、御材木の運搬はますます遅れてしまったのでございます。

(高野山文書)

永仁の徳政令

一² 質入れしたり、売買した所領のこと

これについて、所領を質に入れて流したり、売買したりすることは、御家人らの困窮の原因である。今後は(所領の質入れや売買を)禁止する。これまでに売却した分については、売ったもとの所有者(御家人)が領有しなさい。ただし買った後に將軍家の下文くだしづみや下知状げちじょうをいただいたり、支配後二〇年を経過したものについては、幕府から与えられた恩領か私領かにかかわりなく、今さら現状を変更すること

はしない。……

つぎに、御家人以外の武士や庶民が質流れによって得た土地や買った土地については、二〇年の年限を経過していたとしても、売主(御家人)のものとする。

(東寺百合文書)

悪人正機——『歎異抄』

「善人でさえも極樂ごくらくに往生おうじょうするので、悪人が往生できないはずはありません。ところが、世間の人は一般に『悪人でさえ往生するのだから、どうして善人が往生できないことがあるのか』とっています。このいい分はひとまあずはもつともであるように思われますが、阿弥陀仏あみだぶつの本願ほんがんである他力たりにきによる救いの考え方には反しています。その理由は、自分の力を頼って善行をおこなえる人は、一筋に阿弥陀仏の他力にすぎる心が欠けているので、阿弥陀仏の本

願からはずれているのです。……欲望や悩みをたくさん身につけている私たちは、どのような修行をつんでも、生死をくりかえす苦しみから解放されないことを（阿弥陀仏が）お憐れみになって、救ってやろうという願いをおこされたのは、悪人を救うためですから、阿弥陀仏の救いを求める悪人こそが、往生できるもつとも正しい条件を備えているのです。そこで、善人でも往生するのですから、まして悪人は（往生できないはずがないのです）」と（親鸞しんらんは）おっしゃったのである。

二条河原落書

近頃京都に流行しているものは、夜討ち、強盗ごうとう、いつわりの綸旨りんじ、それに囚人、急使はやうまの早馬、たいしたことでもないのにおきる騒ぎ、切られたばかりの首、俗人に戻る僧侶、勝手に出家しゅっけする俗人。急に大名だいみょうに出世する者、逆に路頭に迷う者、本領安堵あんどや恩賞おんしょうを目当てに、実際にはしてもいないのに戦きをしたという者もいる。所領を没収された人が訴訟をおこし、証拠書類の入った細葛ほそつづらを背負ってやってくる。おべっかを使う者、人を悪くいって訴える者、禅

僧・律僧（は政治に関与し）、下剋上げこくじょうをして成り上った者も
 いる。能力の有無を調べることなく、誰彼となく任用する
 雑訴決断所ざつそけつだんじょ。つけなれない冠や高級な衣裳を着て、もちな
 れない笏しやくをもって、内裏での交際をするのもこっけいだ。
 ……誰が師匠だというわけでもなく、広く小笠懸こかきがけが流行し
 ているが、これも新しい風情だ。京の公家風くげと鎌倉の武家
 風とをごちゃまぜにし、全員の調子がそろわない怪しげな
 連歌会れんが、いたるところでおこなわれる歌詠みの連歌会では、
 誰もが判定者になるといった具合。（『建武年間記』）

一三五二年の半済令

一、寺社本所領のこと 観応三（一三五二）年七月二十四日
の通達……つぎに、おうみ近江・みの美濃・おわり尾張の三カ国の本所領
の半分については、ひょうりょうりょうしよ兵糧料所として、今年一年の収穫
に限り、（守護の）軍勢に預けおくことを守護人に通知し
た。残りの半分については、本所に渡しなさい。

（『建武以来追加』）

惣掟

今堀村いまぼりの定めた村法

延徳元(一四八九)年十一月四日に決定。

- 一 3 薪まき・炭すみは惣たのものを焚たくこと。
- 一 5 惣の屋敷を借りて村人でない者を住まわせてはならない。
- 一 7 他所よその者は惣の身元保証人がいなければ、住まわせてはならない。
- 一 8 惣の土地と自分の土地の境界争いは金銭ですますこ

と。

一 9 惣の所有林で生木を切ったり、葉を掻き取ったりする者は、村人ならば村人としての身分を奪い、村人でない者は村から追放する。

一 16 家を売った者は一〇〇文につき三文ずつ、一貫文につき三〇文ずつ惣へ出すこと。違反した村人は宮座の構成員から除名する。

一 17 家を売った代金を隠して報告しない村人は起請文を書かせて以後違反しないことを誓わせる。

一 20 堀より東に屋敷を建ててはいけない。

(今堀日吉神社文書)

正長の徳政一揆

(正長元(一四二八)年)九月 日。一天下の土民が一斉に蜂起した。「徳政だ」と叫んで、酒屋・土倉・寺院などを(襲って)破壊し、質入れした物品などを思うままに略奪し、借金証文などをすべて破り捨てた。管領(畠山満家)がこれを取り締まった。総じて国が亡びる始めとして、これ以上の事件はない。日本の国が始まって以来、土民たちが立ちあがったというのは、これがはじめてのことである。

(『大乘院日記目録』)

山城の国一揆

今日(文明十七(一四八五)年十二月十一日)、山城の国人が集会をした。その年齢は上が六〇歳、下が一五、六歳という。同じく山城国中の土民たちが群れ集まった。

今度の(畠山)両陣への対応を相談して決めるためだという。もつともなことであろう。ただし、これは下剋上がきわまったものだ。

今日(文明十八(一四八六)年二月十三日)、山城の国人が平等院で会合した。山城国中を統治するための掟を定

めるのだという。まことに感心なことだ。ただし、これ以上
上国人の勢力がさかんにになると天下のためにはよくないこ
とになるだろう。

（『大乘院寺社雑事記』）

加賀の一向一揆

叔和しゅくわ西堂せいどうが次のように話した。「私は今月(長享二へ一四八八)年六月)五日に越前えちぜんの府中ふちゅうに行った。その前に越前えちぜんの朝倉あさくら氏の援軍が加賀かが国へ向かって出発していた。しかし、一向一揆の軍勢二〇万人が富樫とがし氏の高尾城たこうじょうを包囲した。そのため今月九日には城は攻め落とされた。城中の富樫一族の者は皆殺されて、一向一揆側は富樫一族の者一人を加賀国の守護にとりたてた」。

(『蔭涼軒日録』)

加賀の名目上の守護となった富樫やすだか泰高は、百姓によって
擁立された者であるから、だんだんと百姓の力が強くなっ
て、近頃、加賀国は百姓の支配している国のようになって
しまった。

(『実悟記拾遺』)

分国法

一 わが朝倉あさくらの城郭じょうかくのほかには、領国内に城郭を構えさせ
てはならない。すべて所領のある者は、一乗谷いちじょうだにに移り住
み、郷村ごうそんには代官だいかんだけをおくべきであること。

(朝倉孝景条々)

一 喧嘩けんかのことについては、どちらがよいか悪いかにかか
わらず、罪科とする。ただし(相手から)しかけられたけ
れども怒りをこらえた者については、処罰しない。

(甲州法度之次第)

一 駿河・遠江両国の（今川氏の家臣の）者は、あるいは勝
手に他国から嫁をとったり、あるいは婿を迎えたり、娘
を（他国へ嫁に）やることは、今後は禁止することにした。

（今川仮名目録）

一 農民が地頭に年貢や雑税を納入せず、他の領主の所領
へ逃げ込んだ場合には、盗人として処罰する。

（塵芥集）